

1. 居宅介護支援事業でも対応に苦慮する困難事例への関与。2. 必要なサービス導入がされていない事例への関与。3. 住民含め、他機関から依頼のあった事例への関与
1. 虚弱高齢者の早期発見、早期対応のしくみづくり 2. 要介護認定者の悪化予防 3. 元気、虚弱高齢者の介護予防 4. 生活機能低下者への支援 5. 各年代層に対する、生活自立支援システムの構築
1. 業務のPR
1. 業務の見直し 2. 情報公開などに対応できる事務内容(訪問対象・記録等)の見直し 3. 1事例、1事例を大切に事例への関与
1. 業務自体のアセスメント能力(統計分析、評価も含む) 2. 関係機関との連携のマネジメント能力 3. 家族機能の調整能力
1. 業務上で個別にあがってきた問題を地域の問題としてあげる能力それを施策としてとりあげてもらえる様な能力 2. 同じ分野でも、保健、福祉の連携がしにくい。予防事業を合同で計画することはどうだろうか
1. 業務遂行にあたってより効果的に行なうための分析や報告
1. 緊急な事例への関与 2. 地域の健康意識への向上へむけての努力
1. 緊急を要する(命に関わる)ような事例への関与 2. 他機関から依頼のあった事例への関与(いかにスピーディーに対応できるか) 3. 特に一次予防に重点をおいた訪問活動、住民との関わりが大切になってくると思います。そのためには必要な職種との日頃からの連携を密にとりやすく勤ける(タイムリーに勤ける)体制づくりも必要になってくると思います
1. 緊急を要するケースかどうかの判断とその対応 2. 社会資源等の利用が来ていない問題事例への対応
1. 緊急を要するケースへの迅速、的確な判断 2. 地域住民との交流、ケアコーディネート技術(ケアシステム)
1. 緊急を要する事例への関与(いつでもすぐ対応可能な体制が必要)
1. 緊急事例(精神、DV等)へのタイムリーかつ適切な介入、関与
1. 緊急時に対応するケースへの関与 2. 乳幼児、児童虐待への保健師としての対応とネットワークの体制整備について
1. 緊急時の判断能力 2. 地域情報を得られるネットワークづくり
1. 緊急性の高い事例への適切な関与 2. 広い分野における知識をもち、住民ニーズにあわせたサービスの提供
1. 緊急対応は他職種(チーム)にまかせたい 2. 生活支援として個別支援から社会資源の発掘や開発、地域生活支援ネットワークづくりができればよいと思う
1. 緊急対応への関与(依頼のあった事例への関与) 2. 緊急事例を通じて、関係機関との連携のあり方を共有・定着
1. 緊急対応を要する事例への関与(感染症等) 2. 生命に関する危機介入事例への関与(虐待等) 3. 複数機関が関与し支援、事業展開する事例への関与
1. 緊急的なケースへの関与(連携機関内コーディネート)
1. 緊急的な介入が必要な場合の迅速な対応。2. 長期的な介入が必要な場合の将来設計をした上での対応。
1. 近所との関係がうまくいっていないケースの調整 2. 独居、高齢者世帯の制度にかかわることのないケースの(ex介護保険対象外)介入
1. 経済効果考えた事業の展開(介護予防、生活習慣病予防等) 2. 地域の声をすいあげ、必要ならば他分野にも働きかけていくこと
1. 警察署、消防署、医療機関、福祉事務所(生保) 2. 福祉事務所(生保)、市町村保健センター、社会復帰施設、介護支援センター
1. 結核管理 2. 健康づくり 3. 育児サポート
1. 健康・生活に関する住民に最も身近な相談機関としての周知(住民のSOSを受けとめる機関として) 2. 命にかかわる危機介入事例への関与は当然だが危機に陥らないように援助していく役割
1. 健康づくり
1. 健康づくり 2. 介護予防 3. 育児支援
1. 健康づくり 2. 子育て支援 3. 他機関から依頼のあった困難事例への関与
1. 健康づくり(健康寿命延伸) 2. 母子保健相談・指導 3. 精神保健相談・指導
1. 健康づくり(予防活動)の提案と組織づくり
1. 健康づくり、一次予防
1. 健康づくり、介護予防の強化 2. 他職種との連携強化(依頼のあった事例への関与)
1. 健康づくり、介護予防活動の強化 2. 精神保健関係 3. 母子への精神的サポート
1. 健康づくり、介護予防活動の強化と充実。2. ノーマライゼーションのまちづくりに向けた活動への関与
1. 健康づくり、介護予防活動の強化と地域づくりの支援 2. 高齢者等虐待など地域、民間との連携 3. 命に関わるような危機介入事例、処遇困難事例 4. 精神、難病などより専門的にかかわりが必要な事例 5. 保健、福祉行政施策への提言、地域の健康福祉ネットワークづくりの視点から
1. 健康づくり、介護予防等、一次予防活動の推進(住民の主体的な健康づくりの支援) 2. 住民のしあわせのために、どこにでも入れる特性を生かし、医療、福祉、教育、労働等との連携、調整 3. 他機関からの依頼のあった事例へのすみやかな対応
1. 健康づくり、介護予防等の予防に関する事業への関与 2. 今まで広く浅くという関わりだったがある程度専門的な分野に関わっていく必要があると思う。
1. 健康づくり、健康維持活動の企画、実施 2. 他職種との連携をとり、個別に対応したケア体制の確立
1. 健康づくり、健康増進への関与
1. 健康づくり、疾病の予防に関する保健指導 2. 健康づくり事業の企画
1. 健康づくり、心と体の(疾病予防、健康の増進)に関する業務(現状は病気や疾病、老化に伴う身体機能の低下に苦しむ人々へのサービスの提供や情報提供が主たる業務であるが、保健師の仕事は別の所にあると思う。)
1. 健康づくり、予防の情報と実践指導と普及啓発 2. 母子～成人、難病、障害と区別せず、どんな病状や症例にも対応できる幅広い知識とケースワーク
1. 健康づくり、予防活動 2. 保健分野のみならず福祉分野等 広い部署とのかかわり
1. 健康づくり、予防業務
1. 健康づくり→介護予防 虐待予防 2. 連携・ネットワークづくり→処遇困難ケースへの対応 地域での健康づくりの実践 3. 地域力の活性化(コーディネート力 地域、技術のスキルアップ)→母子保健→見守り 成人保健→相互に健康を意識し合う 老人保健→見守り
1. 健康づくり…生活習慣・虐待予防 精神対策など
1. 健康づくりとして、自分の身体に関心を持ち、維持していくための予防活動 2. 困難事例への関与(援助を得にくい一人暮らし高齢者や、精神関係)
1. 健康づくりと介護予防
1. 健康づくりにおける保健予防活動
1. 健康づくりに関すること 2. 個別ケースに対する対応技術の習得(虐待など困難事例)
1. 健康づくりに関する業務
1. 健康づくりのための1次予防 2. 幅広い分野での保健師のかかわり、保健分野だけでなく、医療、福祉、介護保険等

1. 健康づくりの促進
1. 健康づくりへの関与(企画も含めて) 2. 困難ケースへの関与
1. 健康づくり介護予防活動 2. 虐待事例等への関与 3. 地域組織を活用した活動
1. 健康づくり支援…住民との協働 2. 危機(感染症、災害)時の対応 3. 住民の声を施策に生かしていくため企画・計画に関する業務
1. 健康づくり施策への関与とリーダーシップ。それによる地区住民組織育成。
1. 健康づくり事業 住民が自ら健康への関心をもち、自分の健康は自分で守れるような支援 2. 心の健康づくりなど、閉じこもりなどの事例への関与
1. 健康づくり事業の対象別対応事業の実践 2. 介護予防事業への業務分担と体系化への参加 3. 住民主体の健康づくり支援と共同参加
1. 健康づくり事業への関与 2. 母子保健 子育て支援
1. 健康づくり組織づくり事業への関与 2. 1人のケースの健康づくり、成長している人への関与
1. 健康づくり組織の育成 健康的、発想のできる社会づくり 2. 子育て支援(次世代を担う親子の健全育成)
1. 健康な高齢者を増やしていくための事業の企画、調整 2. 保健、医療、福祉の経験と知識を生かした問題ケースへの対応 3. 保健、福祉以外の分野にも保健師が達出し、住民の健康管理のために連携していく
1. 健康な人へのアプローチの方法 2. 虐待、精神疾患ケースの介入 3. 効果的な地区活動の展開
1. 健康な人への生活習慣病予防について 2. 命に関わるような危機介入事例(児童虐待etc)への関与
1. 健康な地域づくりへの関与(積極的な)住民意識、組織づくり支援 2. 子育て、母子保健担当と協同による、子供の健全育成、思春期への関与 3. 精神保健関係での緊急対応や、事故防止へ関係者への関与 4. 介護保険未利用者への関与。拒否等による閉じこもり者への関与 ※母子関係の歪み、精神の問題、高齢者の介護拒否等、地域社会が、共生に対して機能しなくなっている。健康な地域づくりに全般的に関わる必要があると思う
1. 健康について広い視野で考えていくこと 早期教育と継続指導 2. 個別対応の技術向上
1. 健康に関心のある人とならない人の二極化が生じている、関心のない人へのアプローチ法 2. 災害、新興感染への対応力 3. 住民と住民(職場、ボランティア、地域、商店)を結びつける力
1. 健康に対する各々の価値観に合わせた保健サービスの充実
1. 健康を主体とする地域カアップへの関与 2. 命に関わるような危機介入事例への関与 3. 子育て支援への地域のネットワークへの関与
1. 健康意識の向上につながるような業務(乳児～老人まで) 2. 心の健康に関する業務 3. 他機関との連携による訪問活動
1. 健康課題を整理し、施策に結びつける活動を進めるための住民とのパートナーシップが図れるような保健師活動をする。「地域の組織づくり」がキーポイントになると思います。
1. 健康管理(個人にあった情報提供、指導、フォロー) 2. 一般事務処理能力のup
1. 健康観へのとりくみ 2. 訪問指導
1. 健康危機の際の専門職としての役割 2. 住民(対象者)のニーズを的確にとらえ施策化する能力 3. 行政マンとしての能力と専門職としての能力 4. 受け皿としての業務(制度の中でフォローできないケースへの対応)
1. 健康危機管理 2. 企画力 3. 専門知識の向上 4. コンピューターを通じての保健活動 5. 困難事例への関与
1. 健康危機管理 2. づくり企画運営、評価、施策反映等
1. 健康危機管理 2. 生涯にわたる健康づくり一次予防の政策化
1. 健康危機管理—保健のみの体制づくりでなく全庁的な取りくみとして検討していきたい 2. 地域住民が自らの健康を考え、動きだすような支援—センターのみでなく社会教育等のタイプアップが必要と思われる(住民の教育が大切か) 3. 政策決定にまで意見が言えるような行政手腕をもつこと。(行政能力) 4. 市町村合併が具体化していく中、現在の業務等の評価をし、見直ししていく必要がある。
1. 健康危機管理への対応
1. 健康危機管理業務 2. 他機関との調整機能(求められた時には即対応) 3. 住民のニーズに合わせた先駆的な事業の開発
1. 健康危機管理—平常時、危機発生時対応 2. 地域特性、ライフサイクル特性を意図した健康づくり対策、疾病対策 3. 保健、福祉計画等の企画、立案、実施、評価への参画 4. 地域ネットワークづくりへの参画
1. 健康危機発生時の対応ができる 2. 地域の中で、コーディネート役をきちんとできる 3. 各自治体の中での政等形成に参加し取り組める
1. 健康教育 2. 健診結果の分析 3. 個別事例と同時に、地域の問題として結びつけること 4. 政策化
1. 健康教育に力を入れる
1. 健康教育を実践できる能力と技術 2. 事業を展開できる機能
1. 健康教育—相談等により、健康維持増進、発症予防が行なえる。また評価・アセスメントをして、実施している事業の評価が行なえる。2. 他機関との連携により、適した対応ができるよう連絡調整等が行なえる。
1. 健康作り 2. 処遇困難事例への関与
1. 健康寿命を延ばすため、現在その地域でどのような問題が起こっているか理解しており、その問題を解決するためにどうすべきか、住民の声も聞くことができ、政策形成へもつなげることができる能力。
1. 健康寿命延伸のための生活習慣及び健康づくり対策 2. 子育て支援及び児童虐待防止としての母子保健対策 3. 自立支援としての三障害対策 4. 高齢者対策及び介護保険制度の円滑な実施のための取り組み 5. 地域保健と産業保健の連携による生涯にわたる健康づくり対策 6. 健康危機管理への対応 7. 関係機関との連携推進 8. 施策化への主体的参画・企画立案
1. 健康寿命延伸のための体系的な施策の展開 2. 健康危機介入(感染症、結核) 3. 母子保健事業の充実(子育て支援、健全育成、虐待予防) 4. 精神保健事業の充実(心の健康づくりの推進)
1. 健康状況を把握し、発信すること。(健康状況の把握、分析が基盤にあるべき) これにより、発生が予測される事態に対応する体制に結びつけること。2. 生活に根ざした健康上のアドバイスを具体的にを行うことができること。
1. 健康増進 2. 困難事例対応の調整
1. 健康増進 2. 母子、若成人、精神、各分野における福祉制度につながる以前のケース状況把握、相談、コーディネート
1. 健康増進、疾病予防のための活動。2. コーディネート機能。
1. 健康増進、疾病予防を第一として、住民が自ら健診、健康に関心をもつこと。2. 住民が動きやすいような保健活動を具体的にを行うこと。
1. 健康増進及び、介護予防への取り組み、それらに対する他機関と連携しての地域づくり 2. 育児支援
1. 健康日本21の推進、一生涯の健康をくみだてられる人を育てる 2. 寝たきり、痴呆予防の組織的推進
1. 健康日本21及び市町村の健康づくり基本計画に基づく健康づくり事業(第一次予防)の充実・拡大 2. 今後は自治体内の連携(あまりされてはいないが)ばかりではなく、企業やNPO、商店街、マスメディア、地域のインフォーマル組織等 様々な機関との連携・協働し業務を行う必要がある

1. 健康面で命に関わる虐待事例 2. 介護保険の該当外になった事例で何らかの複雑な事情をもった事例
1. 健康問題に対し、いつでも対応できる相談機能。(育児不安、ひきこもり、介護予防など) 2. 危機介入事例や重大事例への関与と関係機関との連携、調整
1. 健康問題に対する予防的視点への取り組み。(国の動向を見る) 2. 事業を企画し、予算を勝ち取る力。3. 事業の必要性を統計を用いて伝える能力。
1. 健康問題の情報をキャッチし、住民に伝えていくこと、必要時個別へのアドバイスをおこなう 2. 個別対応を大切にしながら、住民の保健問題にあたっていく、その際に必要となっていく関係機関とのネットワークづくりをおこなう
1. 健康問題の適確な把握と、それに対する施策づくり能力向上。2. 連携活動。
1. 健康問題への解決、予防が継続できる事(継続できる事が住民の役に立つ事だと思われる) 2. 事業の取り組みは各市町村で異なりますが、長期目標は、同じ保健師として討論できる場面でもありますが、それができない、もう少し力をあわせていきたい
1. 健康問題を地域住民とともに明確にしていき、住民が主体的に取り組んでいけるよう支援していく(いわゆる地区組織活動) 2. 感染症対策-予防、啓発活動
1. 健診や健康相談等の事業の中であるいは地域住民・民生委員等からの何か気になるという情報や気づいたことに早期に対応していくこと。
1. 健診未受診、地域よりひきこもりのある事例への関与
1. 検診の事後で把握された問題事例への関与
1. 原点に戻って、きちんと相手を受けとめて相談ができる質の高い保健師を望む。
1. 現在、関わっている事例の情報の整理とケース検討 2. 他機関から依頼のあった事例への関与 3. 現在、行っている事業の見直し
1. 現在、母子では発達障害、精神では引き込み、人格障害等、クローズアップされており、もとに掃り、予防面であれば、母子の健全な発達への関わりが重要と思われる。高齢者に関して乳幼児期からの食生活、習慣が基盤となっている。妊婦時から関わることでできる市町村保健師の業務は重要と思う。2. 関係機関からの相談等、調整、指導 3. 予算化し、ニーズを企画へと反映させる。
1. 現在の状況が悪化しないようにする必要のある事例への関与(個人のみでなく、個人をとりまく人間関係も含め) 2. 他機関(同じ分野のみでなく、福祉や教育分野等)の協力を必要とする事例への関与
1. 現段階で、救済できる制度、システムのない事例etc.のときの新しい連携システムへの関与 2. 地域住民、学校現場からのニーズの発見と総合調整、保健施策の構築への関与
1. 個々のケースとのかかわりを通しながら、業務として、PHNが何をすべきかをみきわめ、適切に対応できる力 2. 個々のケースのかかわりを通しながら、共通の問題、地域の問題等をピックアップし、地域の特性、共通な問題として、地域へ返し、住民と共に解決していくための力を持つこと
1. 個々の健康問題解決への支援 2. 疾病予防活動 3. 介護予防活動 4. 心の健康づくり
1. 個々の事例に対して、全体をとらえた対応ができること。2. 問題がおこる前に、予防的な行動のとれる住民を育てること 3. 問題がおこった時に自分の力で解決していく努力を事例自身がするような支援をすること。4. 何かがあった時に協力できる地域、住民を育てる、育つような施策を行うこと
1. 個々の事例への関与から、それらをまとめ上げる能力。2. 行政や保健師が把握している情報をわかりやすくまとめ住民へ提供し、協議する能力
1. 個人、地域住民を対象にした、自立支援、自己決定能力育成、残存能力の開発、維持をつらめいたヘルスケアの活動を各事業に反映させていく事。2. 行政組織の改革ビジョンには、ヘルスプロモーションの手法を取り入れるべく、保健師の活動を望みたい。
1. 個人ごとの健康度を把握し、対応できる能力 2. コーディネイト力と資源利用
1. 個人にとどまらず、地域の問題は地域で対処していこうとする地域をつくっていく能力 2. 多機関が関わっているケースの、機関間のコーディネート
1. 個人の健康問題を見る、五感 2. 地域全体の健康をおびやかすものを見る五感
1. 個人や団体が目標をもち、改善していく力をつけることへの関与。
1. 個別ケースに対しては、保健師としての役割を明確にし、そのケース、ケースにどのように関わっていくか判断し、コーディネートしていく力をつける事 2. 地域の特徴を十分把握し、地域の特性を生かした地域づくりへの関与
1. 個別ケースへの適確な介入 2. 地域住民が真に望むものを見極め、社会状況もとらえつつ、住民にとってよいことをしていく力
1. 個別のケースにきっちり関わり、ケースマネジメントに基づき他機関とも連携しながら、ケースにとってよりよいサービス提供すること。(精神保健福祉業務)社会資源を増やすことを含む 2. 母子保健業務
1. 個別の健康問題を施策化する能力 2. 一律的な対応でフォローできない事例への関与 障害者、低所得者等 3. 制度、サービスの対象外の者への関与(歪の是正) 4. 健康づくりを広い視野で総合計画の中へ位置付けていく
1. 個別の支援(基本と考えます)から、地域の課題をうきほりにし、施策化していくこと 2. 関係者への研修、ネットワーク構築へ向けた取り組み
1. 個別の事例から学んだことを地域の施策として活かせる能力。地区診断。
1. 個別の相談(事例)へのていねいな対応・支援及び評価 2. 担当地域での予防活動(ポピュレーション・ハイリスクストラテジー)展開と評価(P-D-C-A) 3. 担当事業のP-D-C-A 4. 1~3等のP-D-C-A一連のサイクルを通じた市としての健康課題の抽出と整理 5. 部門計画、市総合計画等策定に1~4を反映、施策として位置付けるとともにモニタリング、評価(P-D-C-A) 6. 関係者との円滑な調整力、ネットワークづくり
1. 個別課題やコードを政策化まで検討していく 2. 政策を対象者(個および集団)の中に根づかせていく
1. 個別健康教育や集団の健康教育など、予防の視点で運動指導者や栄養士と連携しながら実施する 2. 痴呆予防教室で、二段階方式のテストを実施しながら、効果判定をみる
1. 個別支援から集団支援へ発展させ住民主体の健康づくり活動に発展させる 2. 事例から保健活動の課題を分析し、施策化させてゆく力 3. 感染症等危機介入事例へのチームアプローチ
1. 個別支援としては、精神、結核等感染症、難病、虐待等の問題に対して、他機関から期待されること。(個別支援をしっかり行う体制が確保しなければならぬと思います) 2. 保健福祉や介護分野での自主グループ育成支援 3. 健康づくりや、地域ケア体制、整備のための政策形成。
1. 個別事例(危機介入や予防的介入etc)を通して地域がみえることと保健師の関わりが理解されていること 2. 地域保健上のその地域のNeedsが、地域住民と明確にでき、対策できる事
1. 個別事例から地域の課題を探る視点をもち、政策化へ 2. 医療と福祉をつなぐ職種として幅広い知識とネットワークを持つこと 3. アセスメント能力、統計処理能力 4. 当事者、対象者のセルフケア能力を向上させる視点での支援 5. 自助グループ支援
1. 個別事例に対する問題解決能力 2. 企画・立案の能力(政策に反映するような)
1. 個別事例のケアマネジメント 2. 地域づくり(市民が、主体的に、健康づくりに取り組めるような動きかけ)
1. 個別事例の課題の一般化と予防するためのシステム化 2. 福祉に配置されている保健師が予防的視点をもつこと 3. 自己啓発の継続
1. 個別事例の改善よりも、政策立案に関すること 2. 個別事例に関与している人が、働きやすくなるためのシステム作り。
1. 個別事例を大切に経験を積みながら、視点は地域全体をみること。(地域住民のコーディネーター) 2. 行政組織の1人として、一般事務職と同じく予算確保でき、人脈をつくっていくこと。3. 専門職としての視点を忘れず、多職種・機関とのコーディネートができること。
1. 孤立した状況にあるケースへの関与(周囲からの支援の拒否等、閉じこもり傾向の者) 2. もちろん、生命にかかわる事例への緊急対応(虐待等も含め) 3. いかに、他機関からの情報提供を共にかかわるか(対応性のスピーディさ)

1. 孤立している、社会資源を活用できていない事例
1. 公衆衛生の視点をもった予防事業実施及び個々へのフォロー 2. 個々の危機介入事例への関与 現在、予防事業がメインとしてすすんでいるが保健師として個々への視点や関わりを大切にしていける必要があると思う。
1. 公衆衛生上、問題となるような疾患の危機管理 2. 地域において健康づくり活動を行うための、住民のエンパワメントの支援 3. 健康に関わるデータの収集と管理、活用
1. 公衆衛生的な住民保健ニーズの現状把握と問題点から施策化へすすめる企画力 2. 子育て支援のネットワーク化
1. 公的機関でなければ支援できないような事例へのかかり(多問題、環境調整が大変なケース、どこからの支援もないCase) 2. 地域の方々が、自らの健康問題に関心をもち、予防的な活動を実践できるように、組織づくりを行い、効果や評価にもとづいてレベルアップや広がりがもてるようにすること
1. 効果のある介護予防事業の展開。(地区診断に基づいたものが良い) 2. 地域住民と共に協働する 3. 関わった個への対応としては、コーディネートの役割を發揮してゆく
1. 広く社会全体を見守る能力。社会学、統計学、経済学、文化人類学、心理学などさまざまな学問を学び教養を持つ。看護といえども市場原理に基づいて活動しなくてはならない時期だと思いで、民間活力を十分に活用していく姿勢が大切。2. 今までの価値観は、おそらく通用しないと思うので、常に住民のニーズを把握することが大切。3. “使われる側”が“使われる側”と社会構造が二極化していく中、保健師は、どちら側なのかかわからないけれど、ほとんどの保健師が“使われる側”になってしまっていると思う。これだけは他人には、負けないというものを1人1人が身につける。保健師+αのなんらかのセールスポイント、アドバンテージが大切
1. 校区担当制でなく業務分担制で担当地区をもつこと(その業務の) 2. 処遇困難ケースの対応
1. 行政としてのPHN(事務もできる、法、予算について) 2. 広域でものをみる目 3. タテ割にならない
1. 行政としての位置の確保。2. 住民より信頼される活動の積み上げとPR。3. 「公衆衛生」の概念を教育と実践で改めて問い直すこと。
1. 行政と法律の谷間に落ち込んだ人へ手を差しのべるのは、市役所の保健師しかできないと思います 2. 低い階層で生活している人々へのソーシャルな関わりは、市の保健師として欠かせない事だと思います
1. 行政施策への参画 2. 住民による主体的な健康づくりの支援 3. 困難事例への対応(健康保持が困難) 4. 健康危機への介入(災害時、感染症発生時等)
1. 行政職としての政策能力
1. 行政職としても展開している能力
1. 行政職の場合=処理能力を養う 2. 法律、予算の活用能力 3. 専門職として関係機関との調整能力 4. 専門職としての最新知識 5. 最も重要なことは人間性をみがぐことである
1. 行動科学的関り 2. 一次予防業務 3. 自助グループ作り(虐待予防等) 4. 地区組織の育成は昔も今もこれからも大切 地域に根ざした活動があつてこそ成り立つ、疾病予防だけでなく、例として、次のことも考える。☆新生児・乳児の全数訪問→特別な支援の必要な家族の見極めができる→早期介入、フォローにより一児の健全な発達(親や子どもの育ちを支える)・重大な危機の予防ができる等
1. 高度医療在宅療養者へ危機介入の為に保健、医療、福祉の連絡調整 2. 自立支援の視点を基本としたケアプランの作成と展開(三障害者対象) 3. 三障害程度 区分の認定技術 4. 保健、医療、福祉の調整技術(システム作り)
1. 高令化がすすむ中での医療費の適正化に関する働きかけ 2. 地域と行政との健康管理面での継続した働きかけ
1. 高令者に対しては緊急・困難ケースに対しての介護保険分野も含めた一貫した対応を持って事例に関わることとケアマネジャー資質のレベルup 2. こどもの虐待等困難事例に対して年令、機関にくざらない、児相、学校等の密な連携と権力、責任を持った関わり 3. 妊婦、Babyの時から早期に保健と関わり、学校とも密に連携、学童、思春期からの保健予防への意識づけ、…働きは若い世代に置いていく方がいいのでは?より予防の意味もあるし、高令者は介護保険でフォローされる所が多いがこどもはないため。
1. 高令者の1人暮らしの方の事例への関与
1. 高令者への虐待(金銭・暴力・放置)への介入 2. 精神疾患を併せもつ事例(又はキーパーソンの精神疾患)への対応 3. 介護予防
1. 高令者福祉に関する処遇困難事例への関与 2. 乳幼児への総合的視点からの関与 3. 町ぐるみ健診後の精検者への関与
1. 高齢社会がすすむので、介護予防の面での業務は重要だと思ふ。
1. 高齢者と精神障害者世帯への介入関与
1. 高齢者においても児童においても虐待や放置といった多問題ケースへの対応が求められている。援助技術・調整能力などスキルアップしていかないと保健師への信頼がなくなってくるのでは…と感じる 2. 各々のレベルに応じた介護予防と健康づくり
1. 高齢者の地域生活支援ネットワーク、システムづくり、及び緊急対応システムづくり 2. 痴呆老人の地域生活支援ネットワーク、システムづくり、及び緊急対応システムづくり 3. 虐待老人の地域生活支援ネットワーク、システムづくり、及び緊急対応システムづくり 4. 精神障害者 ※住民に対する啓発活動及び予防活動 ※上記業務が遂行できるような職場の体制が必要 ※業務遂行に必要な知識、技術取得のため研修計画及び整備が必要
1. 高齢者へ子供夫婦等の重い虐待事例への関与 2. ニーズに応じた事業の企画と運営(現場スタッフとしてでなく)
1. 高齢者虐待など、複数の関係機関が関与しなければならない事例 2. 介護予防が必要な事例 3. サービスにつながらない事例や緊急性のある事例
1. 高齢者虐待など命に関わるようなケースへの関与 2. 介護予防 3. 他職種との連携が必要なケース
1. 高齢者虐待事例への関与 2. 難病事例への関与(予後の不安をもつケースが多い) 3. 要介護者であり低所得者事例への関与 4. 身体能力の低下していない痴呆高齢者事例への関与
1. 高齢者虐待等への介入について
1. 高齢者対策
1. 国保などと連携した予防業務 例(糖尿病で放置されている方等へのアプローチ) 2. 地域の中での世代別の健康づくりへのアプローチ
1. 今ではなかなかそのような事例に出くわすことがなくなってきたが、いつ出あうかわからない事例ではあるので、その時にどう対応し、どの機関と連携していくか中心となってまとめていく役割になっていきたいと思います 2. 業務が細分化していく中で、他機関との連携なしでは業務を進めていくことはできないと思う。保健師だから…ではなく、保健師だからこそ、業務に関する、それ以外のことも学び取得していき、そして正しい情報を知らせていかなければならないと思ふ
1. 今後は、生活習慣病予防や介護予防が重要な業務となるが、地域の実態に合わせて、実施する必要がある。例えば、呼びかけや働きかけに応じる者への対応と呼びかけに応じないハイリスクの者への対応を分けて、アプローチすべきで、そこに、専門職としての機能があると考えます。2. 依頼のあったケース、問題ケース、困難ケース等には積極的に関与すべきである。1人では訪問できない、事前に予約をしないと訪問できない等自信のない保健師が増えている。個別対応の技術を高めないと知識や口先だけの信頼されない保健師ばかりになって、やがて無用の専門職になるだろう。
1. 困難ケースが在宅で療養する場合に様々な機関が関わることが多いためその調整コーディネーター 又、様々な家族形態となってきたためその調整 2. 在宅介護支援センター等の他機関からの事例への関与 3. 予防的意識を持った関わり
1. 困難ケースに対するかわかりをもつ機関のコーディネーター 2. 地域状況のわかるような保健活動 ex訪問による情報集取と住民に保健師の顔を覚えてもらう。
1. 困難ケースに対する対応 2. 関係機関が多く関与している場合の調整機能(コーディネーター) 3. 地域住民とともに地域づくり、ネットワークづくり

<p>1. 困難ケースの増大と介護保険支援費など、制度導入がすすみ、多様な職種と機関の連携がすすんでいる。このような状況で、保健婦の役割は大きい、医療や保健をベースにした役割を求められる。(子育てや、合併症等)保健師集団の言う「専門性」と、他から求められる「保健師の専門性」のギャップは大きい 2. 地域をベースにライフサイクルの保健活動を経験した、保健師が、いろいろな部署から求められている、経験ない人はいないといわれることもある 3. 地域で様々な住民の生活と健康を全体的にみとおしながらとりむ保健師活動をとりもどさないで「保健師」はいなくなる</p>
<p>1. 困難ケースへの介入 2. 他機関との連携・調整</p>
<p>1. 困難ケースへの介入と関係機関との連携 2. 他機関から依頼のあった事例への関与 3. 多問題家族への介入と他機関との関与 4. 地域資源の把握とネットワークづくり</p>
<p>1. 困難ケースへの関係職種との積極的な連携と 2. そこから、現状で不足しているサービス等のニーズを把握し、関係機関との調整のもと、施策化を図っていく業務</p>
<p>1. 困難ケースへの関与 2. ケース処遇の中で、個々の困難な部分を介護予防とか保健・福祉サービスなどある視点で分析し、問題提示して施策に反映していくこと</p>
<p>1. 困難ケースへの積極的なケース・ワーク 2. 健康危機管理への対応</p>
<p>1. 困難事例 危機介入事例などの共有、ピアカウンセリング</p>
<p>1. 困難事例、潜在している事例の早期発見、早期関与(育児不安等) 2. 多職種が関わる事例でのコーディネート</p>
<p>1. 困難事例になる前の早めの対応 2. 色々な事が起こりうる現状に臨機応変に対応すること。</p>
<p>1. 困難事例に対し、他機関と上手連携をとりながら、様々な方面から支援できるよう、コーディネートする</p>
<p>1. 困難事例に対して、すみやかに的確なアドバイスと介入が必要。</p>
<p>1. 困難事例に対するケアの能力 2. 地域でひっそりと暮らす障害者の方への見守りやケア 3. 介護予防活動</p>
<p>1. 困難事例に対する関与(児童虐待、DV等) 2. 虐待予防</p>
<p>1. 困難事例に対する判断力、マネジメント 2. 生活習慣病一次予防に関心をむけられるようにする 個への動きかけ 3. 企画、調整する能力</p>
<p>1. 困難事例に対応するためには、ふだんの保健活動の充実が大切である。地域の住民(区長、民生委員、保健、近所の人)や関係機関との連携がふだんから取れていれば、すぐに対応できます。目立たないようでも地域に密着した活動が重要だと思います。ex住民組織育成</p>
<p>1. 困難事例の解決のため地域の各機関・職種を結びつけ解決していく調整機能を果たす 2. 1. のことから地域におけるシステムを作っていく。</p>
<p>1. 困難事例へのサービス提供等のコーディネート 2. 介護予防の視点から必要な事業の展開 3. 地域の実態把握と問題点解決施策の展開 4. 関連機関とのネットワークづくり</p>
<p>1. 困難事例への関与</p>
<p>1. 困難事例への関与</p>
<p>1. 困難事例への関与</p>
<p>1. 困難事例への関与 2. 健康を考えた時に、地域の実態を把握し、住民のといっしょに学習、考えていけるような企画をすることなど</p>
<p>1. 困難事例への関与 2. 総合相談窓口としての機能</p>
<p>1. 困難事例への関与 2. 予防事業</p>
<p>1. 困難事例への関与 2. 予防事業</p>
<p>1. 困難事例への関与(専門性を生かせる分野で) 2. ヘルスプロモーションの推進としての関与(専門性を生かしコーディネーターしていく)</p>
<p>1. 困難事例への関与や他機関から依頼にあった事例への関与や支援方法の助言 2. サービス資源のネットワーク化 3. 行政サービスの制度化 4. サービスの適正運営のためのシステムづくり</p>
<p>1. 困難事例への支援 2. 他機関から依頼のあった事例への関与 3. 他機関との連絡、調整</p>
<p>1. 困難事例への早期対応とネットの構築 2. 第1次予防</p>
<p>1. 困難事例への対応 1. 住民のニーズを把握し組織をつくり連携する能力</p>
<p>1. 困難事例への対応 2. 虐待防止と介護予防 3. 健康増進活動</p>
<p>1. 困難事例への対応 2. 個人から市町村への施策へつなげていくこと</p>
<p>1. 困難事例への対応(連絡、調整) 2. 情報の収集と分析、評価、提供 3. 健康づくり、疾病予防に関する政策の企画立案</p>
<p>1. 困難事例への対応。2. 地区活動の強化。</p>
<p>1. 困難事例への対応。専門的な関わり 2. 関係職種間の調整能力</p>
<p>1. 困難事例への保健師活動能力の増大</p>
<p>1. 災害、緊急テロ、SARS、狂牛病等緊急的な支援 2. 母子保健の中で虐待予備群への支援 3. 保健師の担当地区の状況や、地域全体を把握して必要性の高い事例から取り組むとよいと思います。国の方針や方向性に左右されず、現場で感じた事や大切にしたい事を優先させていきたいと思う</p>
<p>1. 災害時に於ける保健活動 2. 他機関から依頼のあった事例への関与 3. 関連機関との親睦会への参加</p>
<p>1. 災害時の対応…地域保健活動の内容は市の防災計画にはない</p>
<p>1. 災害時を含めての危機管理 2. 住民ニーズの政策化</p>
<p>1. 在宅サービスにおける調整、コーディネート。2. 潜在ニーズの発見</p>
<p>1. 在宅での看取りなど、地域で高齢者が暮らすためのネットワークづくりのキーパーソンとしての機能 2. 困難事例に保健予防の視点で問題をとらえ個人から地域全体へ解決の糸口をすすめていく本来の保健師の業務など</p>
<p>1. 在宅での独居者に対する緊急介入事例への関与 2. 高齢者子どもに関する虐待事例への関与 3. 他機関から依頼のあった事例への関与 4. 処遇困難事例に関わってきたスタッフとのネットワーク化</p>
<p>1. 在宅で暮らせる、地域ケアサービスの体制づくり(高齢者では(痴呆、ねたきりなど) ・在宅ターミナルのケア体制充実 ・精神や難病などの在宅生活、支援体制)の充実について、医療費用の面にも着目した効果。2. 健康な生活の支援一特に新生児期の育児、母を含めた家族の支援の充実 3. 災害、感染症など、新規の健康相談と対応。</p>
<p>1. 在宅介護支援センターとの連携 2. 統計データをもとにした保健活動</p>
<p>1. 在宅療養しているが介護保険利用しない方への自立のための援助 2. 介護予防のための健康教育等 3. 母子関連事業(マザーリング)母子の虐待や育児不安ケースへの個別対応</p>
<p>1. 子どもの健全育成が図られるような母子への支援と地域での支援体制づくり、自助グループの育成 2. 健康な高齢者を増やすような取り組み 3. 自殺者減少への取り組み(メンタルヘルス)</p>
<p>1. 子どもの命に関わる事例は最優先に対応する 2. 他職種、他機関との連携を密にし、より適切な対応をする</p>
<p>1. 子育てが楽しいと思える地域社会を作っていくために子育て支援を展開できる施策力とサービス提供の実行力 2. 他機関・他職種と連携する調整能力。</p>
<p>1. 子育てへの不安や挫折への予防活動の重視。2. 生活習慣病等疾病の予防活動の重視</p>
<p>1. 子育て支援 2. 地域での人材育成</p>
<p>1. 子育て支援(虐待防止)に関する事業、事例への関与 2. 健康づくり、介護予防に関する事業 3. 精神保健(うつ病も含む)に関する事例への関与</p>

<p>1. 子育て支援、虐待防止につながる母子保健事業（一体化した） 2. 介護保険サイドで行う介護予防事業と保健サイドで行う介護予防事業の体制づくり（有効なあり方） 3. 介護保険ができてからそれぞれの専門職は、連携づくりにつとめている（保健師ばかりでない）今後保健師として健康な社会づくりという視点で学校や、企業等との協同の取り組みができる力がほしい。</p>
<p>1. 子育て支援のネットワーク化（実働できるネットワーク） 2. 健康づくり等グループの育成 3. 精神障害者や外国人、障害児などマイノリティのサポート（地域全体のノーマライゼーションに波及効果が期待できる、一般の住民サービス「のために必要）</p>
<p>1. 子育て支援への関与…ネットワークとしての取り組み（連携） 2. 健康づくり事業への関与 3. 介護保険に移向する前の介護予防事業への関与 4. 介護保険の行政の果たす役割…民間事業等、質の向上を図る（評価事業）</p>
<p>1. 子育て不安の軽減のための対応</p>
<p>1. 子供の人格形成人権尊重に基づいた育児支援（虐待防止） 2. 多職種間のコーディネート（サービス、制度も含めて） 3. 元気高齢者が増える為の介護予防事業の推進</p>
<p>1. 子供を自分なりの健康管理の方法を身につけ、自立した生活のできる大人に育てる援助 2. 高令者がいきいきとした生活を自分で送れるような、高令者の自律生活取得のための援助。保健師は生活達人であり、地域人でなければいけない。と思う。</p>
<p>1. 市政の健康に関与すること</p>
<p>1. 市町村においては、精神保健分野に関わるスキルの修得が大切と思う</p>
<p>1. 市町村の保健師なので配属された職場で専門性が発揮できるよう専門的な知識と判断力、他職員との人間関係をうまく保ちながら仕事をしていくこと 2. 自己満足で終わらず他人からも評価される仕事の内容、やり方をしていくこと</p>
<p>1. 市町村の保健師は住民にとって一番身近な所にいる。何でも（健康面に限らず）相談できる職種であると思います。保健、福祉、医療だけでなく、生活、経済、教育、オールマイティーにその人をサポートできるような姿勢をもちつつけること、そのためには他の専門の方々との連携能力はとて高いものが要求されると思います。</p>
<p>1. 市民がいきいき心豊かにすごすためのまちづくり（全庁的なりくみ）への政策立案、実施、評価への関与 2. 虐待予防や生活習慣病等の一次予防 3. 学校との連携による思春期保健教育</p>
<p>1. 市民に対し健康づくりに関する説得力のある情報提供</p>
<p>1. 市民のニーズをよく把握すること。そのために基本業務の視点もいつも検討すること 2. 1. を政策化していくこと、そのために合意形成のスキルアップ市民との協働のスキルアップ</p>
<p>1. 市民の方々との直接的な支援（訪問や、面接） 2. 1. を通して、他職種との連携を的確かつ迅速に行動できる知識と判断力。（事業の立ち上げ、企画能力）</p>
<p>1. 思春期保健対策（教委・学校等との連携）、社会の体制づくり等 2. 健康づくり、介護予防事業の推進 3. 危機管理体制へむけて知識の習得と実践可能な保健師</p>
<p>1. 支えあう地域づくり（ボランティア育成etc） 2. 困難事例での調整役、介入</p>
<p>1. 支援する対象を全体的にみて、トータルな援助を展開していくこと</p>
<p>1. 支援費制度時代において、潜在している健康問題の発見能力及びマネジメント能力の向上 2. 地域、生活、命に対して、保健師として携わることの意味。保健、福祉部門において専門職がボラレス化しています。このような時だからこそ、他職種と共働すること、保健師職能のすべきことについて研究教育部門の方々、このような機会に考えることができることうれしく思います、今後ともご指導下さい。</p>
<p>1. 施策。しかしPHNは作りあげた施策を実施する立場にいない。その為、関係機関（者）とのギブ&amp;テイクをはっきりさせ”利用してもらえ”顔を作ることが重要と思う。</p>
<p>1. 事業のマネジメント力など</p>
<p>1. 事業の企画 立案、計画づくり 2. 連携、協力 3. 住民参加の健康づくり</p>
<p>1. 事業の企画、能力と適切な評価ができること</p>
<p>1. 事業の企画、立案、評価 2. 他機関との連絡、調整</p>
<p>1. 事業の評価（状況の変化等、客観的な数値からの） 2. 健康づくり介護予防事業</p>
<p>1. 事業の評価をきちんと行い、次の事業へつなげていく</p>
<p>1. 事業へのボランティアや住民の参加をコーディネートする能力 2. 危機介入事例（母子・精神）への関与</p>
<p>1. 事業化 2. ネットワーク化（組織化）</p>
<p>1. 事業企画能力 2. ケースのマネジメント能力 3. 命にかかわる危機介入事例へのサポート 4. 人員削減からくる事務的業務 5. カウンセリングの能力</p>
<p>1. 事業評価と次の事業への展開</p>
<p>1. 事業評価や現状把握などから時代に応じた事業を企画、運営できる能力。予算組みも含めて。2. 自らの役割を明確にし、PRできる能力と、他機関との連携。柔軟性、判断力 3. 緊急時や災害時の危機管理能力。（知識や技術なども含めて） 4. 住民参加型の行政を実施できる能力。上手にリーダーシップがとれる資質。</p>
<p>1. 事業評価能力にあわせて、政策形成 2. 保健師の視点は常に住民の生活にむいていることと思う</p>
<p>1. 事務職と協働し、新たな保健事業への関与</p>
<p>1. 事務的なことよりも対人サービスを大切にす体制づくり</p>
<p>1. 事務的なノウハウ（企画運営的なもの） 2. 他機関への連携</p>
<p>1. 事務能力 2. 保健分野以外</p>
<p>1. 事例から見えてくる健康課題を行政の保健計画に提案できる 2. 健康危機発生時、適切な対応、的確、スピーディな指示能力 3. 専門知識の習得やスキルの向上に努める、自己啓発に努める、などが要求されてくる</p>
<p>1. 事例に対しては自立支援にむけての援助 2. 一般住民の希望を把握し住民も含めて企画を行うこと</p>
<p>1. 事例のアセスメント 2. 問題解決のために事例にかかわる専門機関との連絡</p>
<p>1. 事例のアセスメント能力 2. 住民から依頼のあった事例への関与 3. 住民ニーズの発掘・企画部門への提案</p>
<p>1. 事例への関与によって、明らかになるニーズの中で、行政としての取り組みが必要な課題については注目し、施策化に向けて、提言していく、もしくは、施策化する</p>
<p>1. 事例や地域の現在の状況から、今後どのようなことがおこるか予測する 2. 健康度が向上するような方向性を当事者と共に考えあえる 3. 関係機関と共に住民を支える 4. 住民が自分たちで判断し行動していることを常に情報を流しながら共働していく 1～4を遠くうして行っていくこと</p>
<p>1. 事例をつみ重ねながら、地区診断を的確に行い、住民のもっている力をひきだしていく 2. フットワークの軽さ、地区組織力 3. 地域住民全体が対象であるが専門的にかかわれる業務も必要、1つ1つ深くかわりたいたいところが現状では広く浅くならざるをえない</p>
<p>1. 事例をとおして、事例の対応責任者が誰か明確にし連携を密にすることが大切 2. 高令者ぎゃくたいや、子どものぎゃくたいなど関係者がそれぞれの分野で責任能力を発揮し、連携することが大切</p>
<p>1. 事例を見つけたし、支援していく力を持つこと 来る者（申請者）だけを相手にしてはだめ、地域を歩くことが大切</p>
<p>1. 事例化する前の予防的な地域活動～子育て支援 2. 虐待であれば、世代間伝承をたちきするような見への積極的介入</p>
<p>1. 事例対象者やその家族、関係者の精神面を支えるような関与の仕方 2. 事例を通して新たなシステムを作り出していく活動への援助</p>

1. 児童ざく待ケースへの関与 2. 精神保健衛生業務(母子精神保健を含む) 今後増加すると予想されるが、相談、依頼があった時に、すぐに行動できるだけの時間的な余裕が業務の仕事が多くできない現状になりつつある
1. 児童虐待ケースへの関与 2. 高齢者のメンタルヘルスに関する事例への関与
1. 児童虐待につながる可能性のある母子への対応(閉じこもり、若年、児の発達がグレイゾーンなど) 2. 多問題家族への対応
1. 児童虐待の発生予防 ハイリスク親子への対応→虐待対応の支援技術の向上 2. 健康づくりの支援→地区住民組織、ボランティア組織、自助グループ等の育成、支援
1. 児童虐待の予防に関する業務 早期発見(積極的な)、支援、危機介入 2. 介護予防、健康づくりへの取り組み
1. 児童虐待やネグレクトの早期発見、対応 2. 精神保健分野
1. 児童虐待や高齢者虐待への関与
1. 児童虐待事例への関与 2. プレゼンテーション能力
1. 児童虐待等で、心に傷を持つ子の心のケア 2. 社会に適応できない人達への心のケア
1. 児童虐待等の命に関わるような社会状況になるのを予防する施策や事例への関与が重要と考えます 2. 介護保険の適正運用への関与
1. 児童虐待予防 2. 健康づくり、健康増進
1. 児童虐待予防のため、子育て支援への関与 2. 学校の諸問題(不登校、性教育、家庭内暴力)に対する地域連携、介入事例への関与 3. 乳幼児健診の見直し。子育てをする母親の意識が変容しているため、健診の見直しが必要と思われる。
1. 児童及び高齢者の虐待予防 痴呆高齢者への関わり 2. 1.に対する地域の見まもり体制づくり 3. 健康づくり、介護予防
1. 児童相談所等にも保健師を配置して欲しい。2. 自殺予防に関する専門チームを設置しチーム内に保健師を配置して欲しい。
1. 時代の流れ、事例の個性性、ニーズに専門職として関わるための知識と技術 2. 高い人間性とネットワーク
1. 時代や個人のライフステージに合わせたアプローチ 2. 他機関との連携
1. 自らが健康であるように意識を高める関与。2. 1に関連して活動等取り組めるようにする。
1. 自らの健康づくりに関心がない住民に対しての、意識、動機づけの介入能力。2. 住民に必要な情報の提供(正しく、新しい情報)に心掛け、理解しやすい様に説明できる能力。(対象者の実践能力を判断し、それぞれに合わせて行なう)指導するという立場ではなく、住民とともに考え、実行していくという様な姿勢。(住民が自立して、自分の健康管理ができる(しやすい)様な体制づくり)
1. 自ら問題を見出し、企画をしていける業務 本来の意味での健康度を上げていける業務
1. 自己決定できる情報提供
1. 自治体に働く保健師であるならば、その自治体(地域)の保健(福祉も含んで)に関する課題を解決するべく施策づくりに積極的に関与していくこと。様々な関係者、関係機関とのコーディネーター役にあたること 2. 個別的、直接的な住民とのかかわりも行政、責務として脈々と継続していく(例えば一人ぐらし高齢者や処遇困難ケースetc)
1. 自治体住民のニーズに答えられる事業の展開 2. 効率的な事務処理能力
1. 自分が担当している職(地域)の中で、1番の優先課題は何か見極め、事業を計画実施、評価していく力(企画力) 2. いろんな人とつながることのできる関係
1. 自分が直接動くのではなく地域のコーディネーター的な役割が更に大きくなるのかな?
1. 自分の業務内容をわかりやすく他機関・職種の人に伝えること 2. 他機関との連携をスムーズに行うために、日ごろから連絡をとっておく
1. 自分らしく生活できるための、健康づくりの普及 2. 住民が実行できる環境(人的、物的、精神的)関与
1. 自立支援のための連携、調整
1. 疾病の重症化防止のため、要指導者の発見と改善への指導を徹底する 2. 処遇困難な事例に対し、関係職種との連携のコーディネーター的役割を行う。(ネットワーク作り) 3. 住民の積極的な健康づくり意識を高める。(自助グループの育成)
1. 疾病の予防、健康づくりへの関与 2. 住民と介護支援事業所又ケアマネージャーとのコーディネーター役としての関わり
1. 疾病の予防活動 2. 危機管理 3. 精神面のケア
1. 疾病予防 保健対策も重要ながら、指導以前の問題(虐待の問題等)にかかわっていかねば、ならないと考えています)
1. 疾病予防(生活習慣病、感染症、虐待、思春期) 2. 健康危機管理一体体制の整備
1. 疾病予防、介護予防 2. 災害や感染症への対応
1. 疾病予防、健康づくり 2. 家族のよい関係づくり、子育て支援、精神保健
1. 疾病予防、健康づくり 2. 他医療機関、地域住民との連携 3. 個々の問題を地域全体の問題として捉え、展開していくこと
1. 疾病予防、健康増進など長寿社会に向けての活動への関与 2. 学校保育所等との連携による子供の成長発育に関する特に関心の問題の改善に向けての地域からの活動の関与
1. 疾病予防にのみとられず、元気づきの方面からも健康づくりに関与すること
1. 疾病予防のための各種健(快)診の住民への情報提供とそのすすめ 2. 健康づくり、疾病予防のための健康教育 3. 介護予防活動
1. 疾病予防のとり組み 2. 困難ケースについて他機関との連携
1. 疾病予防を行うための、ヘルスリーダーなどの住民組織の育成
1. 疾病予防活動
1. 実態把握に基づいた市町村の健康問題を解決するための保健サービスの提供
1. 社会資源とくに一般住民、住民組織とのつながりを得ることにより、地域で自立支援がより可能となるような事例への関与。
1. 社会資源や連携機関を常に整理しておくこと。2. 個々の状況に応じた対応が可能なスーパーバイザーの育成。
1. 社会資源を利用するためのコーディネーター
1. 社会状況の変化によって起きる新たな健康課題の発見と対応 2. 疾病予防活動
1. 若い世代への健康(心、身体ともに)に関する働きかけ。2. 親と子が安心していらしていける地域作り。子育て支援等。
1. 若者のHIV感染予防に関する業務 2. 結核やHIV感染者、AIDS患者の服薬支援に関する業務 3. 子育て支援に関する業務 等
1. 主たる保健問題への関与
1. 受診拒否、服薬中断後、病状悪化で自閉状態(食事もとれないなど)命に危険性が非常に高い場合の危機介入時の具体的な方法などを明確なものがあれば関わりやすいと思います。特に精神疾患の方の危機介入は重要と思われる
1. 住民1人1人が体のこと生活のことを考えて自分で対応できるように指導する力 2. 命に関わるような危機介入事例への関与(日頃より地域の実態を把握しネットワークの確立をはかる)
1. 住民からいろいろな相談がある。その要求に答えられるようにする。
1. 住民からのこえを、まとめ企画、実行できる能力 2. 新しい情報をとらえて、保健業務にいかすこと 3. それぞれの事例にあった対応できるスキルを身につけること
1. 住民からのこえをまとめ企画、実行できる能力 2. 新しい情報をとらえて、保健業務にいかすこと 3. それぞれの事例にあった対応できるスキルを身につけること

1. 住民が健診データから自分の体の状態がわかり、自ら行動変容ができるように支援すること 2. 40～65才までのサービスは生活習慣病対策が中心65才以上は介護予防の2本柱で、若い人への事業のとりくみを強化していきたい
1. 住民が困った時、早めに連絡をもらい、悪化しないような、体制づくり 2. 他機関から依頼があった時、早めの対応ができる
1. 住民が主体的になれるような援助 2. 調整役
1. 住民が主体的に保健活動をしていくための支援 2. 保健計画づくりへの参画 3. 健康弱者への個別支援と支援側のネットワークづくり
1. 住民が本当に安心して生活していけるようなきめ細かい対応とフォロー 2. 地域全体がもれなく健康になっていけるような政策の企画、実行(的確な地区診断能力も含む)
1. 住民サイドで考え、行動(訪問を含めた事業の企画運営等)ができる
1. 住民との協働(自主グループ活動支援) 2. 健康づくり支援
1. 住民との健康づくりをすすめていくこと。2. 予防的な、視点を持つての援助 3. 円滑な連携のススメ方
1. 住民との個別的なかかわり
1. 住民と関わる窓口となり、適切なサービスを受けられるよう関連機関(専門機関)との連携を密にしスムーズな対応、フォローができるよう調整能力の強化 2. より多くの住民ニーズを把握し易いことから、地域づくりに反映するため、計画立案、実施、評価と共に、自治体の実際の施策として実現させていく 3. 地域の保健機関としてより一層の予防活動、健康づくりの役割を担う
1. 住民と関係機関とのコーディネート 2. 住民が信頼するような知識と人間性をもち、身近な相談役としての関わり
1. 住民と共に健康問題を考え、予防・改善していくこと 2. 家族の問題、調整が必要なケースへの支援 3. 予防的視点に立った、地域全体の健康支援(づくり)
1. 住民と積極的に関わっていく事 2. いろいろな機関との連携(特に企業との連携)
1. 住民と積極的に関わっていく事 2. いろいろな機関との連携(特に企業との連携)
1. 住民ニーズの掘り起し 2. セルフケアの意識化と技術指導
1. 住民ニーズの把握 2. 1. をふまえたところの企画 3. 補助金などの活用 4. カウンセリング技法 5. 危機管理能力 6. 専門的知識
1. 住民ニーズを行政に反映すること 2. ケーススタディ能力の向上を図る 3. 危機介入能力の向上を図る
1. 住民ニーズにそった事業を企画する事 2. 他職種との連携により、事例を広い視野で見る事
1. 住民による健康づくり活動への関与 2. 命に関わるような危機介入事例への関与 3. 困難事例への関与、他機関との調整、連携
1. 住民に健康づくりに関心をもってもらい、質の良いライフスタイルが送れるようにすること。そのためにマスメディアからだけでなく、様々な情報提供をして自分に合った健康づくりの方法をみつけてもらうよう援助すること。2. 育児支援 3. 地域の専門職として地域で問題等発生した時のコーディネート役。
1. 住民のニーズと効果を加味した事業の施策化 2. 住民主体の地域づくり 3. NPO、ボランティアも加味した他機関、他職種との連携調整
1. 住民のニーズに応じた企画・運営 2. 行政として、本人が望んでいなくても支援が必要なケースへの介入
1. 住民のニーズに基づいた計画策定と実施など
1. 住民のニーズの中からの支援と、施策への関与 2. 関係機関との調整役
1. 住民のニーズをとらえた事業の企画、また実施後の評価
1. 住民のニーズを把握し、それを政策に反映させていくこと
1. 住民のニーズ把握 住民と一緒に考えた活動の展開と評価 2. 一事例に対して関係機関と連絡しながら解決できる
1. 住民のみならず住民のために働く自治体職員の健康管理(特にメンタルヘルス)(民間に比べ対策が後れている) 保健サービスの専門技術のみならず、事務系の職員(管理職)と対等に協議できるような、広い視野と行政知識がこれからの保健師は必要となるのではないだろうか
1. 住民の健康づくりについて 日頃の業務を分析し、具体的な政策の提案をしていくこと 2. 行政からあてにされる仕事をする 3. 目標を明確にし、成果のあがることを具体的に、ex 糖尿病対策による医療費の減少
1. 住民の健康づくりのための支援、援助
1. 住民の健康づくりへの関与 住民自ら自分の健康に気づき、それについてどうしたらよいか自分で考えていけるような関わりが必要だと思う
1. 住民の健康に関する情報を、地域に一番あったものを、いかに、伝え、実行させることができるかが、大切ではないでしょうか?
1. 住民の健康の保持増進に関する業務 2. 地域で、その人が、その人らしく生活していけるように援助
1. 住民の健康管理意識の向上と具体的な支援 2. 他機関からの相談援助
1. 住民の自助能力を高めること
1. 住民の実態把握(個からマスへ) 2. 情報の伝達(「役立つ保健師」住民意識の変化 変革) 3. 企画力
1. 住民の身近な存在として介入 2. 予防的側面の重視
1. 住民の身近な健康に関する専門職としての相談者。2. 地域の健康課題に対し、各種機関やサービスの総合的な調整を行い、住民による主体的な健康づくりを支援し、地域のケアシステムづくりに努める。
1. 住民の生活の現場で、そのとりまく環境を改善する必要があるならば、一緒に考え、取り組む姿勢が大切。
1. 住民の声に直ちに対応でき住民の信頼を得る(1人の人間として認められていることを住民が確認できる)その上で、健康につながる方向へ共に歩む。
1. 住民の声をきくこととデータの分析により業務につながる事 2. 仕事がより細分化され、それぞれの分野での能力を伸ばすこと。(すべてを把握していけるような時代でなくなったと思われるため) 3. 新しい感染症などの正しい情報を得る
1. 住民の声を活動に反映されること。直接住民とかかわること 2. 他機関のコーディネート機能
1. 住民の声を施策化していく能力(企画、立案) 2. 地区分析と地区把握 3. 職能に限るとコミュニケーションがとれる人
1. 住民の声を生かし、事業を展開すること。2. 他の関係機関との連携を密にし、共に動く
1. 住民の声を聞き、それを代弁して問題解決につなげること
1. 住民へわかりやすい健康情報を提供したり、自主的な会からの要請があれば目的に応じて出前講座等で対応。住民の健康づくりをともに支援していく役割とそれができること。2. 住民の要望をまとめ、それを政策化できる企画力とそれができるポスト。
1. 住民やボランティアを活用した、健康的な町づくり 2. 育児支援 3. 介護予防(元気な高齢者への支援)
1. 住民や関係者が抱えている問題に対してどの位の解決していこうとする意志と力があるかアセスメントできる能力 2. 1. を引き出すことができる能力
1. 住民や他機関からの依頼に即、対応できる体制、関係作り 2. 医療、福祉分野との連携、調整及び関係作り 3. 政策、企画能力(科学的根拠にもとづいた)
1. 住民をとりまく他職種との連携、保健師の視点からの問題提起、及びコーディネート。2. 地域、他機関からの要望に対応できる余裕と柔軟性
1. 住民を対象とした健康教育について 2. 対象者への個人指導について



1. 住民参加、参画を調整する能力
1. 住民参加ということとどう考えて実践していくのか。
1. 住民自らから健康に関心をもち、健康づくりに関与できること
1. 住民自らが健康について認識し、行動をおこせるように支援、共につくりあげつつ継続されること。2. 住民の健康ニーズを常に把握し、それが言葉として出てくるような保健師(地域の声、顔がバツと出てくること)
1. 住民自らが健康に関心をもち、自力で問題を解決していけるような意識をもてる支援
1. 住民自ら健康づくり運動を展開していけるような地域作りへの支援とコーディネート 2. 危機介入事例への関与
1. 住民自身の学習支援 生活習慣病予防 母子支援
1. 住民自身の力で、健康への予防行為をすることができる為の環境作りへの関与
1. 住民主体による健康教育の参画(企画、実施) 2. 公衆衛生の視点でみる 3. 地域の保健、健康問題への将来を見通した対応と、その結果を住民に返すということ
1. 住民主体の活動がすすめられること 2. 住民のニーズを的確につかむこと、そのことについて政策化すること 3. 他機関との柔軟な連携
1. 住民主体の健康づくり運動
1. 住民組織が主体となる健康づくりへの働きかけ。2. 他機関の地域の窓口
1. 住民組織との連携による地域づくり、コミュニティーの形成 2. 保健師の業務等々を上手にPRできる能力
1. 住民組織との連携を図り、閉じこもり者が重症化しないうちに予防的な活動を地域と連携してできる能力。これは母子、成人、高齢全てに共通する部分。
1. 住民組織を育成できる力 2. 介護予防の教室などで実践できる技術
1. 住民等からのわずかなサインもみのがさないよう自ら気付いて介入できる事例への関与。 2. 他関係機関と日頃からの連携。
1. 重複した問題がある困難事例への関与 2. 身体的、精神的、社会的健康の維持向上のため広く健康づくり施策に関与
1. 処遇困難、複雑事例への関与 2. 高齢者、障害者、育児支援等の地域ネットワークづくり(事例をととした) 3. 介護予防
1. 処遇困難ケースに対する関係機関との連携・調整 2. 危機介入になるまでの予防活動
1. 処遇困難ケースに対する支援への関与。(経済情勢の不安定な現状では今までと違った問題が増えてくると思われる。)2. 精神保健に関する事例への関与。
1. 処遇困難ケースへの関与。最近精神がらみのケースが多くなりました 2. 健康づくりの視点を持ち地区組織活動を通しながら健康づくりの実践活動 3. 保健事業の企画と評価
1. 処遇困難の事例への関与 2. 虐待を含め子育て支援の関与 3. 行政マンとしての政策立案、予算等への関与
1. 処遇困難事例 問題処理能力 2. 地区把握で考えられる問題に対しての分析能力と企画能力。
1. 処遇困難事例(母子、老人、精神)への関与
1. 処遇困難事例に対するサービスの調整とサービスの開拓
1. 処遇困難事例の調整、マネジメント
1. 処遇困難事例へのケアマネジャーへの支援業務 2. 地域の関係機関の連携がスムーズにすすむためのしくみづくり
1. 処遇困難事例への関与
1. 処遇困難事例への関与
1. 処遇困難事例への関与
1. 処遇困難事例への関与 2. 健康づくりについての啓発
1. 処遇困難事例への関与 2. 他機関から依頼のあった事例への関与
1. 処遇困難事例への対応 2. 養護教諭と連携し青年期へのとりくみ
1. 処遇困難事例への対応のコーディネートと関与 2. 住民組織、関係機関との協働企画、体制づくり(介護予防、健康づくりなど) 3. 地域福祉計画等、行政の計画づくりへの関与
1. 所属する自治体の健康課題の把握 2. 住民と協働での健康課題への取り組み一現在感じている課題として 1) 育児支援、虐待予防の個別支援、グループ支援を行うことによるスキルアップ。2) 健康づくり、介護予防の視点で住民との協働で目指したグループ支援
1. 諸機関の連携調整(コーディネート)
1. 将来を見すえた、健康づくりへの取り組み
1. 将来を見通した健康(0次予防)の保持・増進 2. 個別事例への相談機能の充実とコーディネート
1. 小さな事例から全体を見て評価し、保健師でないとできないことは何かを考え、行動していくこと。2. 公衆衛生は住民全体の健康度をあげることで、情報を住民に返し、住民が自主的にできる環境をつくること
1. 小児化対策 2. 子育て支援 3. 疾病予防 4. 介護予防
1. 小児期から成人期までトータルに捉えた生活習慣病予防活動(特に予防活動が継続してできるシステムづくり) 2. 精神障害者が地域の一員と暮らしていける(ノーマライゼーションの推進)資源開発や体制づくり
1. 小中学校と連携する中で子どもたちに命の大切さ、正しい性の知識を学んでもらうこと、愛情を実感してもらうこと 2. 母子手帳交付時から育児不安をしっかりとらえたいと援助していくこと
1. 障害のある人への支援におけるケアマネジメント。他機関との連携、サービス等種々の関係機関のコーディネート 2. サービス事業者への助言など
1. 障害をもった事例への関与(現在は少ない) 2. 自助グループの育成 3. 子育て支援、障害者の自立生活支援のネットワークづくりへの中心的役割
1. 障害者(身体・知的・精神)の生活相談 2. 予防活動(健康づくり) 3. 母子保健のとりくみ 4. 災害時の対応(防災計画の中に弱者への配慮を入れたり災害後のメンタルケア)
1. 障害種別や年齢の別なく「総合的に相談できる窓口」での業務。(困難事例への対応、サービス事業者との連携含む) 2. 障害者(身体、知的、精神)福祉業務(事務的処理も含む)障害者ケアマネ業務。
1. 情報の分析、整理から個人や集団、事業に反映していく能力 2. 専門職のみでなく様々な分野、機関と連携、調整する能力
1. 情報をよく把握し、トータル的に健康への関与をすること 2. 地区の特性を活かし企画、運営に関与すること
1. 情報を把握するためには、常日頃の地域住民、関係団体、関係職種等との連携が大切と思われる 2. 児童虐待や老人虐待、一人暮らし等で命に関わるような緊急性を要する事例の対応も重要な業務と思われる
1. 情報収集能力 2. 他機関とのネットワーク作り
1. 情報収集能力 2. 保健師の役割の明確化能力 3. 対象把握と関係機関と協同して支援する
1. 情報提供と情報収集(住民、機関)(個別・集団) 2. 住民の声を企画する一心的問題へのアプローチがどのケースにもある 3. 地域とのつながりが多職種の中で役割分担、職能が明確化するので重要 追 合併が強化するなかで従来の業務方式を考えていると仕事量、住民との接点が減っていくように思われる
1. 状況判断をきちんと行ない、適切な処置が下せること 2. 他機関との情報交流を通し、お互いの役割分担ができ、信頼関係がきずけること 3. 保健師としての資質を高めること、人間性をみがくこと

1. 職能として、保健師の存在のPR
1. 職能になるかどうか分かりませんが、例えば虐待のケース等に必要時介入していく権限(親の拒否等に対して) 2. 保健師という職に対してさらに理解を求めていくような活動(PRなど)
1. 色々な予防が具体的に、住民と共に考えていってきかけ作り。2. 高令者、子どもが安心して生活できるためのたてわり作業を横断的に見ることができるような業務。
1. 食生活や生活リズム、運動習慣、タバコなど基本的な生活習慣が、大人の都合によって身につかず育っていく子が多い。社会教育等の分野と連携をとりながら、健康観を育てることを支援する活動が必要と思う。2. 虐待や、育児に困難感をもつ保護者への関与。3. 生活習慣病予防等の個別への関与 4. 個々の事例から得た事を集団への支援に反映させていく役割
1. 信頼を得るコミュニケーション能力
1. 心のケア-精神面への介助 2. 家族ケア 3. サービス調整力
1. 心の病い 2. 子育てが上手にいかない グレーゾーンのケース相談
1. 新しい正しい知識の習得。2. ケースとの信頼関係。
1. 新しい保健事業のとり組みに関する企画、立案、行政では、計画段階での、専門的意見を求められることが多い、具体的実施においては、初期のみで、軌道にのった後は、どこで人件面・コスト面も考慮して運用していくかも含めて計画・提案が必要 2. 記入例1.については、要請あった時には、迅速に 3. 自分でしたいことよりも、周囲がしてほしいこと(具体化して言える人は少ないが)を察知して、具現化することを優先することの重要性を考えます
1. 新生児訪問の早期訪問 2. 継続フォロー訪問
1. 育児をかねた子育て支援
1. 身近な住民の生活状態を把握し、的確な情報を行政の施策に反映させること(あらゆる計画策定への参画など) 2. 健康、福祉の危機管理システムの構築をする 3. 一次予防をする専門職として社会の認知されること 4. 3. のためにわかりやすい、住民にアピールできる活動をする 5. 福祉、介護保険の現場に所属する保健師は、関わる集団の情報を整理し、予防活動に有効な情報を保健部門に提供する
1. 身体的、精神的な医学的知識や援助についてのスペシャリストであり、地域の中で個人、家族そして地域の健康を守る、援助の中心的な役割が果たせるよう今後、重要である
1. 震災等災害時における緊急事態での対応 2. 企画、保健事業以外を含む、行政の政策能力
1. 人の気持ちを理解しようとする姿勢とその人からの学び 2. 一つの事例から他の事例へ生かす 3. 一人から家族、地域全体を見渡す力
1. 人の行動・言動には、動機がある。動機は人の意識と結びついている。また、「わかっちゃいるけど、やめられない」など、日常生活習慣における無意識、感情面との結びつきも考えなければならない、よって動機→行動→結果「生活習慣病やさまざまな事項(健康面)に対する、人の意識、無意識、感情面について働きかけのできる業務や職能。心の健康と身体の健康について考える。」 2. 自分だけ健康・生活習慣を考えると元気がいられる時代は終わり！健全な地球環境がなければ人の健康も保てないので、グローバルな視点で健康をとらえることが大切「地域環境や平和に関する提言のできる保健師とそういう業務・活動も実施していく職能」 3. 地域にうまれた人材発掘力と活用力、創意工夫にみちた事業展開力 関係機関との連携とともに問題を解決していく力が必要かも。
1. 人を育てるための環境づくりと人材育成
1. 人を引きつける保健事業の起案 2. 現場のみでなく法律等にも精通した事務業務
1. 人間関係調整能力(業者間のコミュニケーションや、対象者とその家族のコミュニケーションを支援すること) 2. 精神疾患の枠には入らないメンタルヘルスに関する事例への関与 3. 多問題ケースへの関与(医療と福祉の深い知識)
1. 人権を守り地域で生活できるための環境作りへの関与が求められた。保健師としては適切な医療につなぐことが優先であった。家族、妹への協力を求めることも必要であった。2. 地域住民への疾病に対する理解を求める
1. 人々が自主的に健康づくりができるための環境づくり 2. 健康を害する危機に対する事前に予防する介入
1. 制度の隙間から漏れる人への関与 閉じこもりの人への関与 2. 児童虐待、高令者虐待予防・サポート機能が発揮できる体制づくり・面接技術+見きわめる力+テクニックを身につけていく 3. 重要と考えられる業務を行なう為の、研修、高い態度、戦略的な支援姿勢を持つ
1. 制度やサービスについて、必要性及び手続き方法がわからない人とかかわりを通して、利用してもらうこと 2. 病気による差別、偏見のない、社会にしてゆくために、保健師の仕事を通して、行政及びその他の機関に働きかける。
1. 成人、母子の健康づくり業務 2. 育児支援
1. 成人病予防対策 2. 地区組織育成(地域ネットワークづくり)
1. 政策 策定能力 2. 仕事をやる範囲(集団)=町全体を見る能力
1. 政策への参加
1. 政策形成できる能力 2. 他機関に積極的に連携できる
1. 政策形成への関与 2. 福祉・介護保険部門との連携 3. 困難事例への関与 4. 関係機関との連携・コーディネーターとしての役割 5. 危機管理対策への関与
1. 政策立案、評価などの事務的な部分 2. 予防活動
1. 政策立案に関与。
1. 生きがいを持った生活が送られる様に事例と共に考える事 2. 幅広く、様々な事例と関わり、他機関とも連携していく
1. 生き生き暮らせる地域づくりのための住民参加の(リーダー)核づくり 2. 事例、共通問題、事業からの健康課題の分析と発生予防対策、警鐘 3. 他課、関係機関との協力によるコミュニティづくり、自己健康管理のための地区組織育成
1. 生まれる前から、死ぬまで、あらゆる時期(世代)に、健康なときから、かかわり、信頼関係を築いておく。住民が問題が起こったときに、いつでも気軽に保健師に声をかけてくれる状況をつくっておく。(できなくても努力する)。保健師側で問題事例を決めるのではないのでは…。
1. 生活が地域で安心して生活できるような生活支援、母子でも高令者でも障害者でも。
1. 生活支援者として行政政策立案と評価能力 2. 家庭訪問指導業務能力の第1人者としての自負 3. 保健師は倫理、技術、知識を兼ねそなえた専門職として自立した業務を展開できる仕事人である
1. 生活者・専門職両方の視点から情報を整理し住民への健康づくり、介護予防のための個別・集団支援を行う 2. 地域と連携し地域ぐるみでの健康づくり、介護予防の事業の企画 3. 関係機関との調整的役割
1. 生活習慣病の予防 2. 介護予防 3. 命に関わるような危機介入事例・児童虐待・精神疾患など 4. 難病、身障など総合的サービス調整が必要なケース
1. 生活習慣病の予防と介護予防、心の健康に関することについて、母子保健からのアプローチ
1. 生活習慣病への対応 2. 母子保健-虐待予防他 3. 介護保健 4. 健康危機管理
1. 生活習慣病対策 2. わたきり予防対策 3. 虐待予防対策(母子・高齢者・障害者)
1. 生活習慣病予防に関する業務 2. 介護予防に關しての業務
1. 生活習慣病予防のための健康管理教育と提供できる情報の確保 2. 地域で生活する心身障害者の日常生活自立にむけての事例への介入と関係機関との連携。
1. 生活習慣病予防のとり組み 2. 健康な高齢者へのとり組み 3. 担当地区の健康課題を把握し対策をたて実践していく力 ※いろんな職種の人々との連携
1. 生活習慣病予防を中心とした職域との連携、又、予防活動を地域住民の手で進めていけるよう地区組織への働きかけ 2. 介護予防活動の展開

1. 生活習慣病予防生活指導 2. 介護予防の運動面の支援(一部) 3. 元気な時から安心して暮らせる、福祉制度知識を町民に伝える役割
1. 生命と生活を保障するための業務 2. 子どもが健やかに生まれ育つ地域環境づくりの業務
1. 生命に関わる(DV、虐待など)に関するケースへの対応
1. 生命に関わるような危機介入事例への介入 2. 当事者だけでは問題解決が困難な多問題家族への介入
1. 生命に関わる危機介入事例への関与 2. 閉じこもり予防、健康増進の為の事業の運営
1. 生命の危機のあるケースへの対応 2. 子育てをしやすい、地域づくり
1. 生命危機のあるような虐待事例の介入
1. 精神、虐待のケース等、関連機関と連携していく上でコーディネーター的存在になる 2. 今まで関与が薄かった学校保健、職域保健へふみ込んで(養護教諭や企業の保健師と連携し)地域住民のライフサイクル全体を考えていく
1. 精神、身体面も含め生活全般にわたる視野での関わり 2. 活用できる社会資源の導入に対する関与
1. 精神にかかわるケースへの対応
1. 精神事例への関与
1. 精神疾患の本人・及び家族に関する処遇困難事例 2. 精神疾患の本人・及び家族に関する処遇困難事例で他機関から依頼あった事例 3. 処遇困難事例の他機関を含めた事例検討会
1. 精神疾患をもつ対象者が増えているため(虐待、閉じ込め、薬物)、精神相談員と協力しての事例介入。 2. 地域住民への健康に関する啓発活動
1. 精神疾患をもつ方への関与
1. 精神疾患を持った職員への介入 2. 生活習慣病予防活動
1. 精神疾患を持つ患者への受診援助 2. 精神疾患を持つ患者への社会復帰 3. 虐待予防 4. 介護予防 5. 禁煙指導 6. 統計を活用した事業企画、評価
1. 精神疾患専門知識をもった人が専門的に関与できる 2. 地域住民の自主グループをつくりあげる
1. 精神疾患等をもつ人の生活援助(子育て援助) 2. 虐待事例
1. 精神障害者に対しての守秘義務問題 2. 関係機関との連携(充実)
1. 精神障害者への市町村での対応
1. 精神保健についての専門的な事例への関与 特に、老人性精神疾患(高齢化に伴い)又、人格障害等のケース(虐待等に伴い) 2. 介護予防事業
1. 精神保健に絡む諸事例への予防的な関わり 2. 個への支援にとどまらず地域のネットワークづくりへの関わり 地域全体の力を底上げすることを目指す必要があるのでは?
1. 精神保健課題として「人格障害」2. 母子保健に於ける「fatusu」「育児不安」3. 難病 等「対応困難事例」における連携、協働のコーディネート能力等
1. 精神保健関係の積極的な関与。2. 児童虐待関係の積極的な関与。
1. 精神保健福祉に関する事例への関与 1. 児童虐待予防への関与 1. 地域での自主グループづくり及び活動支援
1. 精神保健福祉事例への関与 2. 対人保健福祉事例への関与
1. 精神保健福祉分野・地域生活支援が必要な事例への関与 2. 母子保健・育児不安を抱える家族への関与 3. 高齢者・介護予防活動
1. 精神保健分野でのうつ病などの予防と早期発見への積極的な介入 2. 重度の虐待など困難な事例への関与
1. 積極的に行政施策の中に、健康の視点と集団(家族)援助の視点を学んでいる保健師が入り様々な分野にスタッフとして入ること。
1. 責任をもって職務遂行に関与すること 比判ばかりして具体的な企画、文章を提出しない上司(職員)が多すぎる 企画、事務予算など、責任もって、とりむくことが望まれる
1. 先を見通す力。2. 調整能力。3. 他機関から必要とされる人材。
1. 先駆的の事業の立ち上げ、取り組み、個々への対応から学んだことを、集団に対し、予防として取り組めるプログラムなどに生かすこと。
1. 先見性、企画力、創造力、判断力
1. 専門と専門であいた空き間をうめるマネジメント(調整) 2. 予防事業(母子 成人を問わず)
1. 専門看護師のように業務の中にある程度専門性を持たせた方が良いのではないかと。
1. 専門職でいくのか、オールラウンドでいくのか そろそろ方向性を出していかないと、いつでも、国の施策の準備がととのわいない時の代理的仕事を一時的にやる都合の良い職種となっている
1. 専門職ではあるが行政の総合職としての役割が求められている 2. 事例については、1つ1つの事例をていねいに大切に積み重ねていくことでそれはあたり前の業務である 3. 危機管理のできる力をつけること
1. 専門職としてだけでなく行政職としての自覚をもって積極的に職務を遂行していくこと 2. 他機関からの依頼については積極的に対応すること
1. 専門職として地域のニーズ把握し施策へ 2. 個別健康教育
1. 専門職の機能を十分に発揮した上で、行政能力を身につけること 2. 地域活動のコーディネーター役 3. “予防活動”の視点を忘れずに活動を遂行すること
1. 専門職の少ない市町村にあつては、事例検討や、ケースワークの中心になる。2. 福祉施策や、保健施策の立案や実行、管理に関して関与
1. 専門職性を見失わず遂行すること
1. 専門性の向上 2. 住民のエンパワーメント
1. 専門性の向上のための研修の強化(特に精神保健に関する事例) 2. 他機関との連携、コーディネーターとしての機能の強化
1. 専門性を生かしたサービスの提供 2. 住民への知名度をあげる
1. 専門性を生かした事業の企画とPR(地域のニーズ把握を含む) 2. 事業に対する評価と市民への周知 3. 介護予防、痴呆予防を含むライフステージに応じた健康づくり 4. マネジメント機能(処遇困難事例等) 5. 思春期教育、教育委員会他、関係機関との連携
1. 専門知識と公務員としてのバランスのとれた仕事 2. 業務内容の分析、評価を正しくできる力、住民にとって必要なことを、企画し、効果を出すこと
1. 専門知識に基づいた、その場にいることだからできること ex)行政なら健康づくりに関する環境整備
1. 専門知識を駆使して、利用者(対象者)の現状と今後について、予測を立て、関係機関に情報収集をして、確認し、必要で適切な処遇を考え、対応していくこと
1. 専門知識を早く取得し、地域住民の質問等のニーズに答える 2. 危機介入事例への関与 3. 保健、医療、福祉が連携していくための調整。
1. 専門的視点を持って地域を把握すること 2. 地域の問題、住民のニーズを明確にしていくこと 3. 職種間の連携の橋わたしをすること 4. マイノリティへの対応
1. 専門的知識を生かした企画 2. 他機関との調整(事業や個別のかかわりでも)
1. 潜在的ニーズを感じ取ることのできる能力。2. 正常と異常の適切な見極め。
1. 全て予防活動につながる 虐待予防であり、疾病予防であり介護予防であると思います。そのための政策提案・企画立案していける力をつけることが必要だと思います。現場での対人スキルだけでなく、社会環境を評価して自ら方向性を見いだせるような、そして、それを住民や他機関に発信していける能力を持つことが必要です。

1. 全ライフステージへの基本的な知識を伝えることは常に重要と思う。2. ケースの問題を他機関、部門へなげかけて調整をはかるとか、ゆくゆくは地域が良くなっていくように検討する場を設けていくこと。
1. 全体的コーディネイト 2. 予防活動
1. 措置から契約にサービスが、かわったため、十分に理解できず、サービス利用ができないケースがあり、ケアマネや担当課との連携が必要 2. 保険(介護)料のアップが各市で行われているため、予防事業への関与が必要
1. 組織の中で行動が出来る手腕(行政判断力) 2. 多くの専門職が競合する中で保健師職の役割求められる物は何なのか、public health Nurseが体制に合わないものとなっているように思う 3. 相談の窓口となり関係職種、機関の調整役としての関与。(支援のためのサービス調整役)
1. 早い時期からの健康づくりの啓蒙と推進(介護保険の対象者にならない、元気な高齢者になってもらう) 2. 他課に初めて配置され、自分達が出会っていた人はほんの一部だったことや、住民としているような顔をもたれていることを実感した。改めて、すべての人が保健師の対象者だったということ。
1. 相手の気持ちをひきだせる技術 2. 精神障害者に利用できる施設や制度について
1. 相談、かかり方について一機関になうのではなく、生命危機のあるようなケースの場合、各関係機関と連携しながら、各役割を確認していくことへの関与
1. 相談、来所にまでこぎつけない自分たちの中だけで困っている事例の発掘
1. 相談をきちんと受ける事のできるケースワーカー的業務
1. 相談を受けてから、家族がどの程度力を持ち行動をとるか、又それに伴い発生する危機への対応 2. アルコール依存症の父親とイネグラの母、ACの子どもの家族の将来を見ずえたアプローチ 3. 保健は父親の治療の継続を中心に本人と家族(母親)を支援し、子どもは現相が、福祉は経済的総合的にかかわることが何回もの調整会議をする中で役割を分担し連携の中で支援してきた 4. 生活保護の家庭に自立を指導するむつかしい中、ネットワークで支援していくと可能であるということを学んだ事例
1. 相談機能能力 2. ケース(困難事例)のコーディネイト
1. 相談内容が明確でないが、とにかく困っているケースなど、問題をたくさんかかえ込んでいるケースが多いので、保健師の介入は重要
1. 総合職のような立場が必要 看護技術だけでなく、それを生かすための企画立案ができなければならない。2. より、情報を適確にすばやく整理できる能力
1. 総合調整能力(事例についても、関係機関との連携、調整についても) 2. 企画、評価 3. 危機介入事例への関与
1. 総合調整能力(事例についても関係機関との連携、調整についても) 2. 企画、評価 3. 危機介入事例への関与
1. 総合的な視野で個へのかかわりの調整、関与。2. 価値観の多様化の中ですが、公衆衛生的見地から、問題の提起～計画～実施～と一連の過程を大切に。山村の小さな村でも1つ1つ大切にしていかなければと思います
1. 他のサービスに該当しないケースでPHNの関与が必要なケース 2. 他機関で扱えない難事例のかかわり
1. 他のサービスに該当しないケースでPHNの関与が必要なケース 2. 他機関で扱えない難事例のかかわり
1. 他の課と、企画段階から参画して協同して協働して関係の必要性 2. 専門技術を生かしながらも、他機関、他職種との協働作業への関与と、コーディネーターとしての役割の必要性。
1. 他の専門職種、機関との連携、分業をどうしたらよいか 2. 企画力、事業のプレゼンテーションを身につけるには
1. 他機関(様々な職種)とのコーディネートの役割
1. 他機関、住民から必要とされる力 2. 古いやり方に固執しない発想力
1. 他機関、他職種との連携
1. 他機関からの依頼のあった事例の関与 2. 関わりを必要とする事例の発掘
1. 他機関から依頼があった事例への保健指導 2. 精神障害者や痴呆等、専門知識を要する事例への関与(生活保護等、保健師以外に相談があったケースでも、精神障害や知的障害等専門知識を要する場合に担当者と共に相談を受け、関与する) 3. 支援費制度におけるケアマネジャー的な役割
1. 他機関から依頼がある場合
1. 他機関から依頼された事例への関与 2. マネジメント能力
1. 他機関から依頼のあった、処遇困難事例等への関与。2. 健康に関する意識の低い人への関与。(知的障害も含む)
1. 他機関から依頼のあった困難事例への関与 2. 早期痴呆、軽症痴呆の事例への関与 3. 虐待に関する事例への関与 4. 事例を通じた介護予防のしくみづくり
1. 他機関から依頼のあった事例の関与 2. 命に関わるような危機介入事例の関与 3. 近隣・苦情のあった事例の関与
1. 他機関から依頼のあった事例の関与。
1. 他機関から依頼のあった事例への関与
1. 他機関から依頼のあった事例への関与 2. 公務員としての一般常識(企画書、窓口対応、予算の組み立て、他部署への対応方法など) 3. 住民のニーズ把握を適確に行え柔軟な対応ができること。4. 社会の変化に気づくことができ、情報整理し、住民サービスができる能力があること。
1. 他機関から依頼のあった事例への関与 2. 他機関へ協力依頼することでの困難事例への関与
1. 他機関から依頼のあった事例への関与 2. 不安を持つ母親へのグループ立ち上げの支援
1. 他機関から依頼のあった事例への関与(困難事例含む)
1. 他機関から依頼のあった事例への関与(児童虐待 高令者)等
1. 他機関から依頼のあった事例への関与。2. 関係機関との密な連携。
1. 他機関から依頼のあった事例への関与。2. 連携する機関の事例会の設営
1. 他機関から依頼のあった事例への関与一関係者間の関係づくりの強化 2. 関係機関(民間も含む)で実施されている、事業やサービス等の提供状況を把握し、市民や関係団体が利用できるよう情報提供 3. 地域住民の健康や福祉への関心を高めようとするための働きかけ(ボランティア、自主グループなど住民が主体的に活動できる体制づくり)
1. 他機関から依頼のあった事例への関与一保健師の役割を明確にしたうえで対応できること 2. 事例にかかわる家族や介護者に対する支援 3. 健康づくり、要介護予防に関する業務
1. 他機関から依頼のあった事例への対応 2. 健康日本21の地域版 3. 困難事例の相談・対応
1. 他機関から相談のあったケースの調査や助言。 2. 介護保険に該当しないケースの介護予防的関わり。
1. 他機関から相談のあった事例への関与 2. 経済的理由等からサービス利用をせずに家族だけでかかえてしまっている事例への関与 3. 命に関わるような危機介入事例への関与
1. 他機関での困難事例への関与 2. 行政のあらゆる情報(保健福祉サービスや、他の制度、事業)を住民にいかによりわかりやすく伝え住民自らが選択し、利用できるかのサポート 3. 住民主体の活動を増やしていき、それを支える(あくまでも、先に立ってする事がないよう主体性を引き出していく事が大切)
1. 他機関では対応困難な事例を行政で柔軟に対応していくべき 2. 住民のエンパワメントを引き出すような、健康づくり
1. 他機関で処遇困難な事例の関与が多いです
1. 他機関とのケアコーディネーター(事例) 2. 政策立案とプレゼンテーション、評価業務(行政)

1. 他機関とのサービスを企画・調整すること。2. 地域社会のつながり(住民間の)を深められるような関わり。
1. 他機関とのネットワークをコーディネートすること(場合による) 2. ケースに直接関与して、支援する時間を充分とる
1. 他機関との事例についての共有について
1. 他機関との調整(ケアマネジ)を要する事例への関与 2. タイムリーな保健情報収集と提供(住民、関係機関) 3. 行政内で保健分野からの企画提案、調整
1. 他機関との調整、コーディネートする能力、事例への関与。2. 地域の状況に応じた施策を企画、立案する業務。
1. 他機関との調整が十分必要な事例への関与
1. 他機関との調整を必要とする困難事例への関与。2. 住民の声に耳を傾け、本当に必要な事業を立ち上げ実施していくこと。
1. 他機関との定期的連絡調整(連携) 2. 地区把握 3. サービス・制度、保健・福祉サービスの情報提供 4. 健康づくり・介護予防強化
1. 他機関との連携
1. 他機関との連携
1. 他機関との連携
1. 他機関との連携
1. 他機関との連携 2. 個々へのきめ細かな対応 3. 個人の健康観に適した保健指導
1. 他機関との連携 2. 行政運営に関する能力の育成
1. 他機関との連携 2. 住民との信頼関係
1. 他機関との連携 2. 少子高齢社会対策への参画
1. 他機関との連携 2. 他機関との役割分担、説明(保健師の仕事を他の人、事務の人などに知ってもらう)
1. 他機関との連携 2. 地域ニーズの正確な把握
1. 他機関との連携(業務 事例ともに)
1. 他機関との連携(今よりさらに) 2. 他機関から依頼のあった事例への関与 3. 庁舎内の連携
1. 他機関との連携、ケアシステムを構築する能力
1. 他機関との連携、協力、スムーズな対応
1. 他機関との連携、調整
1. 他機関との連携・統率力 2. 企画・立案
1. 他機関との連携ある事例への関与 2. 専門保健師としての能力(広く浅い知識ではなく、専門ナースのように、地域においても専門的な分野をもつべきだと思う)
1. 他機関との連携と、グループをひばっていく力、指導的役割
1. 他機関との連携の要役 2. 連携、必要な会議から生ずる課題をとらえ、有効な対策を導くためのリーダー役 3. 現状、実態を把握し分析する…そして予防事業へと持っていく役
1. 他機関との連携をとり合う事例への対応
1. 他機関との連携を密にし、一人の住民を縦割ではなく、横のつながりで支えていく事への関与。2. 母子と成老のはざまになっている、学校保健事例への関与。
1. 他機関との連携を密にし、問題の早期発見、早期解決を図ること。2. 地域に出て、住民の生の声を聴き、地域の問題を把握し、行政に生かし、その解決に努めること。3. 健康だけでなく、住民の生活を守ること。
1. 他機関との連携を密にする 2. ネットワークの充分強化 3. ケース会議の必要性
1. 他機関との連携技術・プライドを捨てることだと思う
1. 他機関との連絡、調整 2. 子育て支援(育児不安等個別対応、母子が集まれる場づくり)
1. 他機関との連絡、調整(如遇困難事例など) 2. 感染症発生時の積極的疫学調査への関与
1. 他機関との連絡調整が必要な事例のコーディネート
1. 他機関より連携をとり他機関からの依頼のあった事例へより一層関与していく。
1. 他機関と連携・協力してケースに対応できる力(こちらから積極的に必要な機関に働きかける体制づくり) 2. 住民にとって身近で気軽に相談しようと思ってもらえるようなかわり
1. 他機関と連携して支援を行う必要のある事例を効率よくこなすこと 2. 多問題ケースへの関与
1. 他機関と連携しながら業務を進めていくこと 2. 地域をアセスメントし、計画する能力が必要となってくる。
1. 他機関と連携し困難事例に対しコーディネートしていくこと 2. 専門性を生かし早期発見、早期治療や予防活動、困難事例への対応を継続してできること 3. 地域、学校など住民への教育、啓発と地域づくりをする 4. 地域の住民の情報分析により事業展開への働きかける
1. 他機関と連携を図る中で各々の機関の役割を十分把握した上で、お互い顔みえる連携(どこにつなげるかではなく誰につなげるか)を図れるよう、他機関から頼られるような業務をすすめるよう自己研鑽をつむ必要がある
1. 他機関の連携とコーディネート的役割 2. 地域づくりを意識した、事業展開
1. 他機関へつながっていないような事例の発掘 2. 広い範囲での他機関へのルート作り
1. 他機関へ依頼しながら、情報収集につとめ、ケースに提供する 2. 他機関をまきこんでの如遇困難事例への対応を行う ※音段から関係機関との連携を大切にし即の対応が計れるよう努力する。
1. 他機関や住民等から依頼のあった事例への関与 2. プライバシーの配慮が特に認められる事例への関与
1. 他職種、他機関との連携 2. ネットワークの構築
1. 他職種が1つの事例に複数の機関が関わるが多いのでコーディネート能力が大切ではないか
1. 他職種との連携 2. 住民主体の保健活動への取り組み
1. 他職種間との連携 2. スムーズな対応
1. 他職種等との調整能力 2. これからの保健師ではないが…これからも地域を把握し、(そのためには訪問活動等を通して地域に向く)地域の課題等(プラス、マイナス面も含めた)に応じた事業の企画、立案、評価ができる
1. 他分野と連携した、健康づくり等予防活動 2. いろいろな新しい感染症の増加が、社会問題になっているため、そこへの関与
1. 多(他)機関との連携、調整能力 2. 個、集団のニーズを把握し、個への援助とともに、ネットワークづくり等の地域づくりをしていく能力
1. 多くの機関がかかわっている事例への関与 2. 他機関から依頼のある事例への関与
1. 多くの機関が関わる多問題ケースへの関与 2. 問題を抱えながらも、何の福祉制度も利用できないような、はざまに落ちてしまうケースへの関与
1. 多くの制度を利用している利用者の総合調整機能 2. 如遇困難事例への関与
1. 多機関・多職種で関わるケースへの総合調整能力 2. 自立支援のための各種サービスのマネージメント 3. 住民組織から地域ネットワーク化への関与
1. 多機関がかかわる必要があるケースへの関与 2. 地域でのサポート体制の強化(認識の変化も含めた環境整備)

1. 多職種・多機関でかかわっていく事例への関与 2. どこからも見落されがちでありながら、今後大きな問題につながっていきそうな事例への関与
1. 多職種が関わる事例への関与 2. 関連機関との連携による個別教育
1. 多職種との連携 2. 事例への予防的アプローチ
1. 多問題ケース 2. 他機関及び地域との連携の必要なケース
1. 多問題事例(精神や痴呆、難病等を本人又は家族等が重複抱えているケース等)への関与 2. 制度にのらない、又は利用しようとする事例への関与等々
1. 多問題事例に対して、他機関と協力の上、調整していく、また、地域で必要となっていく、社会資源の開発及び調整
1. 多問題事例の支援には、多くの関係職種でのチームが必要となる。地域での専門職種の中でコーディネーター役。2. 精神疾患の方への地域での支援
1. 多様な専門職や多様なニーズをもつ住民、複雑な制度の中で生活するための相談機能が重要と思う。2. 企画部門で、政策提言できる能力を持ち関与する。
1. 多様な相談事例に対応できること 2. 災害(地震など)の際に、他機関と連絡調整して早急に対応する能力
1. 対象となるケースの健康のレベルは何であれ、健康問題等で保健師に相談が入った場合、必要に応じて他機関とも連携し、よりよい生活ができるよう支援すること 2. 介護予防 3. サービス利用中の方でも処遇困難ケースの調整
1. 対象の健康問題、特性を理解し、それに合った健康教育を企画、運営する力 2. 個人だけでなく、地域全体の健康度、健康に対する意識を高めることができるような関わり。人材を育成していく力(ex自主グループ)
1. 対象者において何が一番問題かを見極める能力
1. 対象者へのカウンセリング技術 2. 事業企画力、プレゼンテーション能力
1. 対象者を支援するためのプラン作成 2. 危機介入事例へのアセスメント能力
1. 対人サービスだけでなく人間が地球で暮らすために環境保全を視野に入れて活動すること。2. メンタルヘルス全般(予防も含めて)。
1. 対人保健サービスにおいて関係機関との連携のためのコーディネート 2. 地域の健康課題のタイムリーな把握能力とそれを政策に結びつけてゆく企画能力
1. 対費用効果のだせる事業の計画実施 2. 市民にもっと身近な保健師に…。
1. 第1次予防活動 2. 介護予防事業 3. 業務の評価、周囲への伝え方、後輩への指導方法等
1. 第3セクターには、まかせられない業務 プライバシーに深く関連する疾患、状況等。弱者といわれる人達のサポート
1. 第一次予防 2. 子育て支援
1. 単身で親族がいらない(交流がほとんどない)痴呆をもつ高齢者への支援 2. 虐待等困難事例への関与(必要時はペアで関わる体制づくりも含めて)
1. 担当者が変わっても、住民に対して同じ対応ができること。2. 対応、その結果を評価していくこと
1. 担当地域の健康度を調べて長期目標と短期目標を作成し、そのために必要な事業を実施する、評価するといった最も基本的な業務にもっと時間を使うべきだと思う
1. 担当地域住民を対象とした、ケアマネジメント(介護保険の対象者を除く、精神、難病、母子、等) 2. 地域住民や他機関から相談があった事例への援助(例、独居老人が痴呆になり処遇に困っている等)
1. 知識や技術を習得し関係機関や住民に提供すること 2. 住民に近に存在になるよう事務業務でなく現場業務を多くもつこと
1. 地域(住民)の健康レベルをアップするために住民自らが行動できるよう援助する ヘルスプロモーションを重視した保健活動
1. 地域(住民)の健康課題を明確にし解決するための事業展開 2. ボランティア活動との連携、活用
1. 地域(地区)の健康問題をつかめる力が必要(地区にでかける) 2. 予防活動
1. 地域(地区組織)づくりに向けての動きかけ 2. 対人サービスの積極的な実施(訪問、健康教育の実施、各種グループへ顔を出すこと等)
1. 地域、家族、他機関との連携。保健師ばかりが連携を強化しても、それに供う他機関の意識の向上もしてほしいです。2. より近い住民から信頼され他機関との連携がはかれること。
1. 地域から家族の健康を考えた予防活動
1. 地域ぐるみの子育て支援、乳幼児健診 2. 住民のセルフヘルプ能力の向上へのきっかけづくり
1. 地域ケアコーディネーションが必要な事例への関与→事例での活用が次の事例に活かせるような活動 2. 地域ケアシステムづくり
1. 地域ケアコーディネート能力。(地区診断できる力が低下しているので) 2. 政策立案・進捗管理能力
1. 地域コーディネーター 2. ネットワークづくり(難病、障害児・者、独居高齢者、虐待児等 応等)
1. 地域コミュニティ組織を育成し、住民とともに保健活動を推進していくこと
1. 地域づくり 2. 介護保険導入前のケースの発見や対応 3. 自立者への対応(地域づくり)
1. 地域づくり 介護予防、健康増進のムードづくり 2. 人々が生き生きと暮らしやすい環境づくり
1. 地域づくり(健康度アップに向けての)
1. 地域づくり、住民とともに健康づくりをすすめていくこと
1. 地域づくりを考えた市民との協働 2. 市民からの要望をすいあげまとめる動き(個別対応があるので)
1. 地域での健康づくりのための支援 組織化を図ること 2. 困難事例への対応 連携強化
1. 地域での情報収集、危機の早期発見と早期対応
1. 地域での地区組織、育成づくり 2. 予防的な活動
1. 地域とのつながり 2. 他機関との連携
1. 地域との連携、及び保健に関する共働の取り組み 例1. 命に関わるような危機介入事例への関与。2. 他機関から依頼のあった事例への関与。のような事例の発生を予防するには、地味な地域活動が必要、起きたことに手を打っているだけでは問題は解決しない。しかし1. 2. の事例に関与しないということではない
1. 地域と連携することで、個及び集団のニーズの把握及び関与。 2. 単に行政の施策を遂行するのではなく、予防の視点をとり入れた関与を行う。
1. 地域にあったサービスを見つけて、提供できる様 行政のサービスを作ること 2. 行ったサービスをPRし、住民が利用しやすい様にする
1. 地域における…放置された要保護者への関与。(介護制度等でしっかり対応できている人以外) 2. 介護保険サービス未利用者で、必要なケースへの関与 3. 疾病の早期発見、早期治療、健康増進にかかるスクリーニング事業及び、ハイリスク者への対応 4. 虐待防止のための関与。(高齢者、児童) 5. 介護予防事業の関与 個別対応のみならず、地域体制づくりも含めた命の危機予防活動。上記対応のため専門知識や技能の力量が求められている。何でも知って広く深く対応する業務と、各領域を専門的に対応できる業務が住民ニーズに答えられ多様な組織の中での保健師活動も必要と考えます。
1. 地域におけるコーディネート機能(地域づくりへの関与)
1. 地域における困難家族への関与(例えば、関係機関との連携を強化したり、不足するサービスを制度下するなどの取組み)
1. 地域における保健の課題を明確にし、その対応策を提言し、計画づくりに参画し、実行、評価する。(当り前のことが段々やられなくなって来ている為)

1. 地域に合った、健康づくり事業の推進 2. 本庁は、専門職は、経験をつんでいても、ラインには、なれないが、ある程度の権限が与えられないと、良い仕事が出来ない
1. 地域のコーディネーターとして処遇困難ケース事例への関与 2. 他機関から依頼のあったケースへの関与 3. 1や2の連絡、調整役。あくまでも線の下の力持ちでよいと思う
1. 地域のコミュニティワーカーとしても関与していくこと 2. 医療、福祉、保健との細分化された機関を調整し、個々の市民の生活を見守っていく職種として活動することが重要と痛感している
1. 地域のサポートシステムの有機的連携
1. 地域のニーズ、特に潜在化されているものを、顕在化し、地域住民といっしょに考え、解決への方法を、ともに考え行動すること。2. 個人の生活を、総合的にとらえ、アドバイス、又は、直接、具体的に家族保健指導を行う、家族機能を回復させること 3. 関係職種と連携し、調整を行う
1. 地域のニーズの発見、そして、健康づくり、介護予防に関する企画・立案 2. 実施した事業に対する明確な評価 3. 福祉・保健・医療の十分な連携への関与 4. 保健師の専門性の確立・再確認、専門性のPR活動
1. 地域のニーズを的確にとらえ、必要なもの(住民の声を積み重ねて)を制度化していく力。2. 高齢者の自立支援への関与 3. 住民の健康度を高めるための個人アプローチ
1. 地域のニーズを把握し施策化する能力 2. 現場(保健所)の中では結核、精神、難病、母子等の複雑困難事例への対応能力
1. 地域のネットワークづくりについての支援能力 2. 調整機能
1. 地域の関係機関の状況を熟知し、それらを有効に活用できるような力量、体制 2. 住民、関係機関から信頼され、お互いに助け合いながら、システムを構築すること 3. 時代や自分の町のニーズを読みとり、それらに効果的にアプローチする活動
1. 地域の健康づくり 2. 健康その他に関する住民組織づくり
1. 地域の健康づくりの組織づくりと支援の強化 2. 介護予防への取り組み 3. エイズや社会的弱者へのサポート 4. 結核や感染症に対する援助と普及啓発 5. 他機関調整が必要なケースや処遇困難事例での調整 6. 精神障害者への支援 7. 虐待予防への活動(子ども、老人) 8. 様々な健康課題での政策提言
1. 地域の健康にかんする情報をできるだけ把握すること(地区把握) 2. 人との関わり
1. 地域の健康を向上させる事業を住民と共に考えていくこと
1. 地域の健康課題を数値化し、施策化すること 2. 糖尿病対策 3. (高齢者、子ども、障害者も含め)虐待の早期発見、予防 4. 高齢者の生きがいづくり 5. 子育て支援
1. 地域の健康課題を分析する中で行政内や社会へ提言し、地域住民や他機関と協働しながら課題実現のためのシステムをつつていくこと 2. 生命や生活の危機に関する介入 3. 家族機能強化のための支援 4. 一次予防、業務
1. 地域の健康実態を明確にし、住民、関係機関と共有し、生活実態と結びつけていく予防活動 2. 上記のこの施策化
1. 地域の健康実態を明確にし、住民、関係機関と共有し、生活実態と結びつけていく予防活動 2. 上記のこの施策化
1. 地域の健康問題 生活問題を把握し、個別及び集団に対し健康問題が解決できるようアプローチしていく 2. 感染症などの危機管理 3. 他の保健師、他職種、他機関との連携の充実により多問題ケース、地域の問題を解決していく
1. 地域の健康問題(予測される)に対して、関係機関と連携をとる事で情報収集を回り、問題の増悪を回避出来る様、速やかに事業化して、解決を図っていくこと。2. 処遇困難事例に対しての、関わり、支援方法の確立とコーディネート。3. 地域住民に関わるスタッフ(例えば、ケアマネ、ヘルパーetc)に対しての質の向上のための指導的役割。
1. 地域の健康問題に関する予防のための活動 自主グループへの関与など
1. 地域の健康問題の解決へむけての事業の企画、運営 2. 家族、地域をキーワードにした事例のとりえ方と他職種との連携のあり方
1. 地域の健康問題の把握(個のみでなくマスで見ると) 2. 1. から出た内容に対して対策をたてる企画立案、評価 3. 住民と共に健康づくりを展開していく事
1. 地域の健康問題の把握・分析と対策の企画 2. 個別事例に対して、関係機関と連携して、総合的にサービスを提供する。3. 地域住民の身近に存在し、健康づくり、疾病予防、療養、介護指導など健康に関する窓口として、認識され、活用される。
1. 地域の健康問題を把握し、その問題を解決出来るような事業の企画、運営をすること 2. 介護予防事業の企画、運営
1. 地域の自助活動への支援 2. 地域の健康づくりへの参画
1. 地域の実状の把握し、住民とともに地域の健康を考え、計画化、実施できること。
1. 地域の状況をみずえた企画立案実施 2. 他機関との連携
1. 地域の状況を知りニーズの高いサービスを作りあげていく企画力 2. 他職種とかかわる中でコーディネート力
1. 地域の色々な機関との連携をとれる様日常からの活動が重要 2. 自治体のPHNとして地域の機関のコーディネート機能 3. 問題個別ケースからの地域の問題の把握につとめること
1. 地域の人といかに手をとりあえるか、そして地域で問題解決する力を育てること 2. 介護予防をすること
1. 地域の人にとっての身近な存在、健康不安を抱えたときに気軽に相談できる存在であることが重要 2. コーディネート力を生かし、ネットワークづくり
1. 地域の組織、自治体などとの連携、健康づくり、介護予防に関する事 2. 依頼のあったケースの他機関、他職種との連携やコーディネート及び多問題ケース時の支援
1. 地域の窓口となり様々な相談事をコーディネートすること 2. 住民が自分達で必要な課題に気づき活動できるよう支援すること 3. 虐待事例への関与 4. 療養を必要とする母子への早期介入(精神的支援も含む)
1. 地域の中にある問題の改善につながる施策の企画に関わること 2. 命に関わるような危機介入事例への関与 3. 本人及び他機関からの依頼をきちんと受けとめ関わること
1. 地域の統計データ分析や住民からの要望をききながら、地域の健康づくり計画の推進(予防的) 2. 住民の身近な相談者としての機能(相談を受けたあとサービスへつなげることも含めて)
1. 地域の把握 2. 子育てしている親への必要なサービスの提供(格差家族がすみ、子育てが大変であり、子供との関わり方がわからない方も多く、そういった親へのフォローが大切だと思うため) 3. 関係機関との協力、連携が必要なケース
1. 地域の把握および、分析をふまえたヘルスニーズの把握 2. 施策の企画、立案および評価 3. 関係機関とのネットワーク形成
1. 地域の保健課題を明確にし、施策へ反映させる努力をすべき 2. その為に住民ニーズをきちんと把握すべきと考える。
1. 地域の保健福祉ネットワーク構築のためのコーディネート 2. 住民、他機関から相談を受けた場合の迅速な対応と、他機関との連携強化 3. 地域住民の健康づくりのために、統計処理と地域の特性、住民の声などの情報をもとに事業計画をたて運営し、評価していくこと
1. 地域の問題の解決策を自治体の計画に反映させる能力 2. 医療、福祉、教育等関係機関の調整能力
1. 地域の問題をあらゆる角度から推測し、それら解決のための事業の企画運営等にあたる 2. ケースを総合的に把握し、マネジメントすること
1. 地域の問題を把握しやすい立場から、問題を具体化し、解決につなげていくのみならず、行政の事業へとつなげていく、企画、調整、運営の業務 2. 気軽に声がかけれ、困った時にはすぐ相談が出来るような、「地域の(健康に関する)何でも屋さん」といった、日常相談の業務。※健康施策のリーダーとしての立場と、身近な相談相手としての立場、そのどちらも、これから非常に重要な保健師の役目になるのではと思います。
1. 地域や関係機関との連携機能 2. 訪問活動での事例の積み上げによる施策への反映や体制づくり
1. 地域をよく知り地域住民に信頼される公衆衛生活動を地域の人と共に具体的にこなすこと
1. 地域を知り、住民のニーズを知る、まちづくり

1. 地域を知り、地域の特徴をとらえた保健業務を行うこと 2. 他機関との連携を密にしておくこと
1. 地域を知る 2. 母子保健
1. 地域を把握し、住民が自ら地域の問題解決をするための行動をおこせるような力量をつけていくための支援
1. 地域看護をもっと発揮し難病やターミナル等に積極的にいかかり、安心して住める町づくり 2. もっと個別支援を大切にしその中からひろいあげた問題が解決できるようなシステムづくり。
1. 地域住民からの要求に柔軟に対応できること
1. 地域住民との個別の関わりもとても大切な業務であるが、これからは策としての保健行政に関わることが大切だと思う(保健活動の実績とその評価を施策に結びつける力量) 2. 虐待への対応
1. 地域住民との連携 2. 地域活動への参加
1. 地域住民と共に健康を考えていく姿勢で地域の健康問題に対しての働きかけ。
1. 地域住民と密接にかかわって、マンパワーの発掘
1. 地域住民のニーズの把握と健康意識行動がとれる様な働きかけ 2. 高齢者に対する介護予防、地域住民合意の互いの相互協力による介護力の強化を側面支援
1. 地域住民のニーズの把握による計画の立案市独自の事業化 2. 他機関との連携をすすめていくリーダーシップ 3. 積極的に住民とかかわる姿勢と困難なケースに対する判断力 4. 行政的センスのある指導者
1. 地域住民のニーズ把握と、それへの適切な対応 2. 健康問題の発生予防のための活動
1. 地域住民のもつパワーを開花させながら、健康増進に向けて方向性をつけあい実践協働していく。2. 地域住民に認められる(期待される)保健師機能 3. 関係機関とのコーディネート能力の向上。4. 虐待とその予防に向けての取り組み。
1. 地域住民の健康づくりのため、地域全体がみえる保健師であること。
1. 地域住民の健康づくりを住民とともに実施していく。(意見のすい上げをていねいに) 2. 母子保健で両親の子供を育てる力を一緒に育てていく。3. 子供連(赤ちゃんの頃から一小・中・高思春期)命の大切さを考えていく事(教えていく)。
1. 地域住民の健康増進活動(介護(老人)、母子、小児、精神の専門性は必要と思われるが、ワクにとらわれすぎて結果たて割の業務となっているので総合的に関与できることが望ましい)←他機関から依頼のあった事例を含む 2. 家族関係に介入が必要な事例への関与(虐待、DV…など)
1. 地域住民の健康度をあげることができるような業務 地区組織を利用した
1. 地域住民の心身の健康増進のための予防教育活動 2. ケースの危機的状況における介入(相談・訪問)と他機関との連携 3. 職能(機能)を自覚し、ネットワークの中で機能を生かす
1. 地域診断をもとにして地域住民の声を吸い上げながらの保健活動。2. 健康危機に対して介入できるような日頃の準備と実際の介入(状況が生じたときに動けることが、住民に対する見せ場にもなり、信頼を得られるかどうかにかかってくるから)
1. 地域全体のケアコーディネーターとなるように、きちんとした地区把握
1. 地域全体のコーディネート 2. 危機介入事例への関与
1. 地域全体の管理(地区診断) 2. 他機関との連携 他機関の調整
1. 地域全体の健康づくり、疾病予防、介護予防、施策の企画、調整 2. 地域ケアシステムの構築 3. 支え合うコミュニティづくり 4. 住民組織の支援、育成(立ち上げ支援を含む) 5. ヘルスプロモーションの理念の普及と体制整備 6. 健康情報の提供(住民及び関係機関へ)
1. 地域全体の健康づくり意識の向上への関与。
1. 地域全体の健康レベルをアップするために常に地域と結びついた活動をする 2. 住民に保健師があてになると思ってもらえる、常日頃の働きかけ
1. 地域全体の公衆衛生を考えると 健康課題の整理とその対策 2. 保健医療の視点で支援の必要な個別ケースの支援と福祉等との連携 3. 1と2のバランスや配分(時間・意識含めて)が大切だと思う。
1. 地域全体を把握し、専門家として介入すべきと判断される事例に積極的にいかかわること 2. 広い視野で業務全体を見る行政職としての役割
1. 地域組織の中での住みやすい町づくり。健診(検診)後の健康づくり地域で取り組む、子育て支援や、虐待、精神障害者等、要支援者に地域で、見守り等出来るよう 2. 住民満足度の視点からの保健師活動の政策評価
1. 地域組織を活用した事業の展開 2. 同じ職場におけるチームワークの強化 3. 事業の見直し、計画、評価、plan do see 4. 他機関との連携の強化 5. 保健師のスキルアップ 6. 個人の評価をきちんとすること
1. 地域特性や健康課題を反映した保健計画の策定 2. 保健、医療、福祉の連携、調整を行い地域ケアシステムの構築 3. 住民組織やボランティア組織の育成 4. 危機介入事例への関与
1. 地域保健として全体を把握し、人脈をつくり、適切な方法で効果的に調整する 2. 同様に、行政にいれば、行政的なしくみも、よく把握し、効果的に動ける 3. 仕事内容、役割を明確に。人から理解されやすいPRできる。
1. 地域保健と環境保健、学校保健との連携による効果的、効率的な保健活動。2. 新興感染症、児童虐待等の新たな問題への関与。3. 住民のニーズに根ざした疾病予防、介護予防等の予防活動や健康増進活動。
1. 地域保健関連施策の企画、立案、実施、評価 2. 1. を実施するためには、様々な部署において、危機介入事例への関与 3. 様々な部署において公衆衛生及び予防の視点に立った事業展開
1. 地域保健及び産業保健の事業連携 2. 地域における健康危機管理体制の整備 3. 社会福祉等の関連施策との連携に関する業務(保健、医療、福祉の総合的な調整、システムの構築、次世代育成支援対策の推進、老人保健事業と介護保険制度を有機的に連続的に運用、精神障害者施策の総合的取組)
1. 地域保健分野での保健師業務として、健康づくり提言等、健康政策への関与はますます重要である 2. 保健福祉医療のコーディネート業務 上記の公的及び民間サービス等の提供と活用が公正に効率的に運用されているかの評価システム構築への関与
1. 地区の人が病気になる期間が短くすむように 2. 病気になっても軽度ですむように重くなる前に受診できるように一予防活動が大切だと思います
1. 地区を調整する能力
1. 地区管理の問題 地区担当制をくずしてはいけないと思う 2. 24h365日の支援体制
1. 地区住民の健康づくり活動への関与 2. 壮年期の健康づくりへの関与 3. 子育てに悩んでいる親へのサポート体制の整備
1. 地区診断、的確なニーズ把握による保健事業の見直し、調整 2. 介護予防
1. 地区診断からの地域住民への関与。2. 住民の話を十分に聞き、自己解決を促せるような十分な時間 3. 地域のコーディネーター的役割。(問題を提起し関連機関の役割を明確化する)
1. 地区診断により問題となった項目への予防活動 2. 個々ケースへの関与
1. 地区診断の能力 2. 健康づくりのための、地域と行政のパイプ役としての力
1. 地区診断を既存のデータからしっかり見直し、行政として企画運営する
1. 地区診断を正確にできる情報収集能力と分析、プレゼンテーション能力 2. 地区診断結果を保健事業に活かせる能力
1. 地区診断等、ニーズ把握等した上での事業の企画、実施
1. 地区診断能力 2. ヘルスプロモーション理論に基づいた事業展開及び評価 3. 多問題事例に対する他機関との連携
1. 地区組織の育成及び支援。人員削減の現在では、住民パワーの力をもっと活用していく方が保健活動の分野としては、有効であると考えられる。
1. 地区組織や個人個人のエンパワメントの活性化→疾病予防にとりくめる住民 2. 乳幼児、精神etc予防的などりくみ



1. 地区組織を活用した介護予防的事業の強化(痴呆予防等を含めて)・生きがいデイのような老人が楽しくすごせるようなB型リハビリを歩いていけるようなところでやっていく(集団、個別の目標を立てる)・多職種と連携をとり保健だけでなく(福祉の情報、環境、栄養、運動、歯科、権利擁護、消費生活センター等) 2. 介護予防プラン(介護予防マネジメントシステムの確立)アセスメントをしっかりとってプランを策定していくこと(ニーズの把握をした上で)
1. 地区組織活動 健康の側面から、自分で健康を守るにはどうしたらいいのか、考える力をつけてもらうような働きかけをすること
1. 地区組織活動 地域の中でのコーディネーター 2. 事例については、他機関との連絡調整
1. 地区組織活動の育成 2. 行政的な能力
1. 地区担当制よりも、業務分担制をとり、より、専門職として、濃厚にケースに、かかわっていく。2. 緊急性他機関からの要請のあったケースは、優先的に関与していく 3. 他の事務職 市役所内への保健師の業務をより明確に打ち出していく
1. 地区踏査や各事業での気づきを見のがさず、施策化し、よりよい結果を追求する 2. 健康に関するデータを住民に公開し、住民に合わせた保健事業を展開する
1. 地区把握・対象の声を聞く 対象にとって本当の健康とは何か、地域のニーズを理解した上で、ニーズに合った保健活動をする。2. 他機関・他職種との連携
1. 地区把握をし、地域にあった事業を展開していくこと 2. 危機介入事例への関与 3. 地域に根ざした相談者としての役割
1. 地区把握をとおして、各々の事例への他機関との調整 2. 地域住民への関与
1. 地区分析に基づく予防保健事業の展開(企画含) 2. 他機関と連携した業務展開・コーディネーター的役割を果たす場合もあり 3. 困難事例への関与
1. 痴呆高齢者とその家族が抱える問題についての事例への関与。
1. 町の「健康を考えられる団体の組織化」地区組織として、保健推進委員はいるが、ボランティア意識がない。
1. 町の健康づくり施策に対して事務職や他の課に連携を求める 2. 事業を統計的に処理して、きちんと評価する 3. 地域の組織づくり(住民のパワーを高め、活用する力) 4. 行政職として、予算の流れ等知る(今、自分に足りないもの)
1. 長期・中期・短期の事業計画をたてることのできる能力 2. 他職種、他機関と連携できるコーディネート機能 3. 訪問、健診などの実践現場でスタッフを指導できる知識と技術
1. 長期的な視野での予防活動 2. 他機関との交流、連携
1. 長期的な視野での予防活動 2. 他機関との交流、連携
1. 直接サービスでは命に関与する問題への関与 2. 地域住民と協働した保健ニーズの吸い上げと課題解決 3. 民間を含む保健福祉サービスのネットワーク化をはかる 4. 行政としてすべき保健活動の抽出と政策化 5. 新興感染症を含む感染症対策や健康危機管理への対応
1. 適切な地区診断と分析能力 2. 住民組織の育成とその運営 3. 円滑な対人サービスと他機関との連携 4. 組織の中での企画と調整力をもち行政の中でのヘルスの分野を開拓していくこと
1. 適切な調査能力 2. 企画、提案能力
1. 統計や分析能力
1. 統計的視点から健康問題をとらえて医療費の削減など形に表せる健康づくり
1. 同様なニーズをもつ人達のグループ化とその支援 1. 地域のニーズを大事にし、事業化、施策化する能力
1. 特殊事例など危機介入事例への関与 2. 障害者支援のための事例への関与
1. 特発的に起きた事例(困難、生命の危機等)への冷静な対応 2. 健康づくり等、その個人、地域に対して、生涯を通しての取り組み。「自分で自分の健康づくりを考え、実行することが出来る」ことへの支援のスウハウ、それを企画、立案、実行へ結びつける事の出来る力
1. 独居や高齢者世帯事例(孤立しやすい事例) 2. 他機関から相談をうけた事例を連携をとりながら関与していく 3. 家庭訪問や面接を大事にしてケースといっしょに歩む姿勢 4. ケアマネやサービス事業者間の連携や相談業務
1. 独居や高齢者世帯における閉じこもりからくる廃用性症候群等要介護状態を予防する活動 2. 痴呆や精神障害等、問題行動がみられ在宅療養生活の支援が必要な事例
1. 独居高齢者、高齢者世帯等の介護予防 2. 地域との関わりやすい事例等の危機に対する関与
1. 日常業務の中での家庭訪問や健康教育活動から生まれる、現場感覚と住民との信頼関係を築く力 2. 関係機関との連絡調整 3. 事業評価と企画能力
1. 日常生活の中で、健康に関心をもてるような環境作り(町の中でも、健康情報が得られるような)また、壮年期から、自分の健康に関心をもつ意識改革 2. 保健師の立場からみて、関わりが必要だと感じるケースへの個別フォロー(例えば、虐待などのハイリスク者など) 3. 相手が上手に良い方向に導びく、目をむけられるように関わるテクニック
1. 日常生活をその人らしく送るための援助
1. 日々の業務(健診・未受診者対応・新生児訪問・フォローケース対応等々)を確実に丁寧に行う中でアンテナを張りめぐらし虐待予防へとつなげていく 2. 危機介入事例への早期介入
1. 乳幼児とその親への関わり、軽度発達障害が疑われるグレーゾーンへの関与 2. ハイリスク妊産婦への関わり、個別の関わりだけでなく、グループ支援、等
1. 乳幼児とその母親への支援を地域を全体で実施していくような、取り組み。2. 中高年者の生活習慣病予防対策(寝たきり、若年死を防ぐための)
1. 乳幼児期の子育て支援、育児指導 2. 健康づくりと介護予防 3. 精神障害者への支援
1. 配置部署に対応した、保健師の専門性の発揮
1. 発症予防(介護予防)に繋がって行く保健事業を体系的に進めていく 2. 障害を持っていても地域でいきいきと生活できる障害者対策と地域の啓蒙 3. 保健・福祉行政を統合した政策の企画立案及び推進
1. 発達・発育が気になる子への対応 2. 病気を抱えている親への対応
1. 発達に問題がある事例への関与 2. 虐待の疑いのある事例への関与 3. 介護に困っている事例への関与 4. 障害者が自立するために、支援を必要とする事例への関与
1. 発達のおくれた児とその家族への関与。2. 精神障害者とノーマライゼーションについて。
1. 必要な事業を行う企画力 2. 他の関係者と連携を保つ調整能力
1. 表からは見えにくい危機状況にある事例への関与 2. 情報不足の事例に対しての情報提供
1. 表面化していない事例の発見(予備軍に対するケア) 2. 住民のパワーをひきだしていく
1. 病気になるったり、介護が必要になった方に対しての悪化予防や改善するようなかかわり。2. 相談あったケースや問題ケースの関係機関への連絡、調整。
1. 病気になるらないための1次予防(より健康でいられるようにしていく) 2. 母子でも成人でも何ら問題があがった時に、他機関とをつなげあわせていけるコーディネーターとしての職務 3. 母子であれば母が自信をもって育児にとりくめるように支援していったり、虐待などを見ぬける力をもつことも必要
1. 病気になるらないようかにか予防的なかかわりを住民としていけるか、情報を提供し、かかわっていけるか(私たちの知識も広く浅くより、せまく深く、専門化している)
1. 病気の予防と健康増進 2. 前向きな療養生活(いろいろな社会資源を活用しながら)
1. 病気が要介護にならないための予防活動 2. 地区組織づくり 3. 思春期の教育
1. 病識が低く、受診行動や生活習慣の改善に結びつきにくい事例への関与
1. 病状悪化時の緊急対応 2. ニーズの施策化
1. 幅広い人脈との情報交換(いざという時の連携、解決策の一助となり得ると思います) 2. 事務職同様の幅広い経験(異動先の考慮)と役職を得ること 3. 保健師の技能を高めるスーパーバイザーの存在(相談、助言)の確保

1. 幅広い人脈との情報交換(いざという時の連携、解決策の一助となり得ると思います) 2. 事務職同様の幅広い経験(異動先の考慮)と役職を得ること 3. 保健師の技能を高めるスーパーバイザーの存在(相談、助言)の確保
1. 幅広い年代や健康について対応できる能力
1. 幅広い分野の知識・情報をとり入れつつ、各専門機関・職種との密な連携を図り、対象者へより良いケア(サービス)の提供が必要だと思います。2. 複雑な家庭環境のケースへの関与。
1. 福祉、教育、保健など多機関が関係するケースへの支援(一般的な対応ですまない問題ケースへの対応) 2. 民間、ボランティア、地域組織と積極的に連携をとっていくこと
1. 福祉でできない保健的事例への関与 2. 健康づくり(一般健康人の0次予防のみでなく障害、疾患をもっている方々への健康づくりも含まれる)
1. 福祉との連携と専門職の役割分担etcコーディネート機能 2. 住民の育成 3. 客観的な事業評価と保健師の役割の明確化
1. 福祉制度へのすき間を唯一提言できる立場(保健部門の横断的な役割) 2. 健康情報があふれている中で、適切な健康指導をできる唯一の立場 3. 育児環境を整えるキーマン
1. 複合的な健康問題を持った、困難事例への関与 2. 健康な家庭づくりの第一歩となる母子保健業務、育児をとおして家族支援
1. 複雑な事情のあるケースや既存の制度で対応しきれない保健師以外に援助する者がいないケースへの対応 2. 個別のケースへの対応だけでなくそれらの人が地域で生活するために必要な基盤をつくること
1. 複雑な問題(精神疾患等の障害や経済的問題等)をふくんだ困難事例への関与。
1. 複雑な問題、処遇が困難な事例への関与 2. 地域資源の活用や地域診断的業務
1. 複雑な問題をかかえた事例への関与 2. 精神保健
1. 複雑な問題をかかえるケースに対してへの関与 2. 住民のニーズにあった事業の立案や内容の検討、展開など
1. 複雑困難事例への関与
1. 複数の機関からの相談があった場合の調整能力 2. 虐待など危機介入事例への対応
1. 複数の問題を抱えた困難事例への対応 2. 個ではなく、個を含めた家族全体を包括した対応
1. 複数機関関係の際の連携 2. 保健事業の評価、予算、住民の満足度など総合的に評価する方法
1. 物事をグローバルな視点でみての判断力養うこと大切。(他機関から依頼のあった事例への関与 スクリーニングされた事例への関与どちらも必要) 2. 危機介入は本来の業務からははずれるのでは。
1. 物事を国単位で考えられる能力、保健予防、介護予防(医療費、介護給付費の削減に向かって) 2. 複雑な問題を抱える事例への関与(情報収集、情報の整理と情報提供、他機関との連携) 3. 地域活動(ひとりの問題をみんなの問題と捉え、自主グループ育成等につなげる)
1. 閉じこもり、引きこもり事例への関与
1. 保健(健康づくり)を入り口にした"町づくりの視点" 2. 社会的基盤がない人に対するサポート
1. 保健、福祉が統合され、感じること 保健の分野を忘れずに福祉行政、他職種にも携わっていく(生保のケース、知的、身体障害者への支援は、制度利用のためのかわかりが主となり、医療の確保、より良い生活のための健康の視点が欠けていると思うので)
1. 保健、福祉の様々な部門に保健師が配属されてきている。それに伴い関係する機関も増えているためネットワークや連携のシステムを実現化するだけの組織力、企画力、位置づけをとれるようになることも必要な職能と考える 2. 他機関からのニーズは多岐にわたっているアセスメントとマネジメント能力の向上と実行力が求められると思う
1. 保健、福祉医療分野におけるコーディネーター的役割。
1. 保健・医療・福祉を中心としてサービスの調整能力 2. 保健・福祉部門における専門性を生かして企画・立案能力
1. 保健・福祉業務における関係機関、関係職種のコーディネーター的役割 2. 健康危機管理
1. 保健だけでなく、福祉・教育など、あらゆる方面の情報に詳しく、それらを総合的に考えて住民へのサービスができること。2. 母子や家庭、子育て等に関する知識・行動力をもち、他機関との連携の中でも、より力を発揮できること。
1. 保健と福祉の両視点を持って、事例を総合的にとらえられること ケアマネジメントリーダーとして、ケアの総合的プランが出来ること。2. 行政の中で、保健・福祉の企画、立案能力を持つこと 3. 公的に支えなければならない事例の発見と、相談への関与
1. 保健に関する地域内の実態を把握 分析 健康情報開示 2. 1を施策として立案していく力 ・住民参加による計画 3. 地域の危機管理、住民の健康増進、予防 育ち合いのなかで ・協働実施 4. 実施、評価
1. 保健ばかりではなく福祉等幅広い情報を常に得て、コーディネートしていく役割 2. ケースの継続的なフォロー
1. 保健医療の知識を必要とする困難事例への対応のリーダー、もしくはスーパーバイザー 2. 子供たちに命の大切さを伝えるための活動のコーディネーター、リーダー、スーパーバイザー
1. 保健師だけでなく他職種や他機関とも協働して行なう事業 2. こころの健康に関する事業
1. 保健師たそれが論から脱するような専門的指導力
1. 保健師とは何なのかを常に考えていくこと 2. 各職場の保健師の役割の明確化
1. 保健師と一口にいっても幅広い仕事がある 対象も乳幼児～高齢者まで疾病のある人からない人までどこが最も重要なのかは、まだわかりません 家庭の中で健やかに又、病気をもちながらもよりよく生きられるための関与でしようか
1. 保健師にとってかわかれる時間が少ないと思いますので、いかにネットワークをつくるか(例えば虐待～小児、老人を含めて)が大事だと思っています。2. 保健師の原点にもどる～予防事業にもっとアイデアを出していきたいものです。
1. 保健師の責任ある地位確立 施策的な場での発言権がある 2. 住民組織の育成
1. 保健師の多忙な業務の中で、優先順位をつけながら、又、必要な業務を効果的な方法で、実施していく能力
1. 保健師の役割、課の仕事の枠組み、方針の決める 2. 住民、各機関の育成、支援 3. 各事業、業務の必要性、業務量、効果の説明
1. 保健師の役割と機能を充分認識し、自分の活動の範囲とそれ以外の側面(他職種のほん中)をうまく使い分け、効果的に支援できる能力
1. 保健師を受け入れられないが必要な高いケースへの健康増進への介入
1. 保健師本来の保健や健康づくりの業務 2. 1に加えて企画や評価などの行政的能力
1. 保健部門の仕事の整理(あれもこれもあり)何か最も重要な事項があっても、集中できずその機能を発揮できにくい
1. 保健福祉政策の企画・立案に関与 2. 各事業のコーディネートや事例の連携等調整に関係
1. 保健分野により専門的な知識を習得すると同時に栄養面や福祉面等、他の分野での知識を深めることが必要と感じる
1. 保健分野以外の関係機関・職種との連携とネットワークづくり 2. 児童虐待の早期発見と支援
1. 保健予防活動
1. 保健予防活動 2. コーディネーター
1. 保健予防活動 2. 統計処理を生かした業務の設置
1. 保健予防的 健診後の管理、病態生理をふまえた予防活動の推進! と思います
1. 母子、高齢者、障害者等、自分家族で解決困難なケースは、支援する。

1. 母子、成人、精神、老人等に対する介護支援専門員(が本来やらなくてはならない)的役割をすること 2. 健康でいられることのけいもう
1. 母子、成人、老人共に虐待予防への関与 2. 他機関とよく連携し、迅速困難事例への関与 3. 住民への健康づくり、健康増進、予防教育、相談に関する事など
1. 母子～成人全てを含めた地域の現状の把握と健康課題に向けた事業計画立案(住民全般の健康意識向上のための施策。要フォロー者のための施策) 2. 命に関わるような緊急性のある個別事例等へすぐ関与できるような職員体制を回す等の環境整備 3. 上記と共に2の実行
1. 母子では育児支援(子育てと親育との両方)と母子をめぐる育児ネットワークを育成していく(支援システムづくり) 2. 精神保健活動の知識と支援技術を持つ 3. 健康づくり体制づくり 4. 市民を大切にしている立場から、行政に提案をしていく力を持つこと
1. 母子に関する危機介入(虐待、精神、薬物、感染症等) 2. 健診に関し、対象者となる事業所との連携。生活習慣病予防のため行動変容につなげていくようにPHNのみでなく、専門集団、力のある機関と連携して事業を実施していく 3. 地域の情報を把握し健康づくりのために情報提供していく 4. 精神保健福祉業務
1. 母子に力をいれた予防活動が最も大切と考える。ここをしっかり、やっていかないと、かなりたいへんな状況になるのではないかと危機感を感じる。2. 小地域で助け合える地域づくり 3. 保健師としての感性を高め、みきわめる能力を持てるよう研鑽すること
1. 母子の(親子)心の健康づくり(環境づくり)・子どもへの虐待防止・年少者により残虐な行為の防止 ※長い間地道な活動が必要とするためとトータルの視点が必要なため 2. 他機関との連携が必要とされるため普段からの情報収集と交流が必要。
1. 母子の心理的サポート
1. 母子への健康支援及び思春期保健を学校・地域との連携で強化すること→子どもの時からの健康づくりが重要と考えています。=ライフスキルを身につける教育の普及 2. 障害者や高齢者へのクライシスコール体制(総合相談体制の充実) 3. 「健康日本21」への新たな活動展開(市民との協働体制)
1. 母子を巡るメンタルヘルス事例への関与 2. 障害児者への関与(精神含む)
1. 母子関係 少しだけの問題にも気づいて関与。2. 生活習慣病予防 一般の人への関与
1. 母子支援(子育て中の父母への相談・援助) 2. 精神障害者への生活支援・相談 3. 危機(災害時等)管理
1. 母子事例での虐待予防と育児支援 2. 精神分野の知識向上 3. 地域主体の高齢者の閉じ込めり予防
1. 母子保健 2. 健康づくり事業
1. 母子保健 虐待防止 2. 精神保健 機能不全家族とトラウマを負ったケースへの介入と援助 3. 感染症 4. 健康づくり
1. 母子保健、虐待事例への早期の対応をし、未然に予防できるような活動、訪問がもっとたくさんできるように事務の軽減をして欲しい。このままでは机上の保健師になりそうです
1. 母子保健、要フォロー児への個別の関わり。2. 他機関との連携、普段からの交流、つながり。
1. 母子保健一訪問事業はますます重要と思われる。2. 成人保健一個別教育での、予防事業。3. 老人一福祉職をたばねたり、リーダーシップをとること。
1. 母子保健のシステムをいかし継続した育児支援のかかわり 2. 他機関との連携の中で地域で事例をささえるための役割をになう。
1. 母子保健の充実 2. 健康づくりの推進
1. 母子保健活動 2. 困難事例に対して他機関と連携した関わり 3. 介護予防活動 4. エイズ予防活動
1. 母子保健施策の充実:町の実態にあった福祉サービスの提供 2. 乳幼児、要介護高齢者の虐待対策:家庭、民生委員、保健委員等の地域の方々、他、専門職として児童相談所、保育施設、介護支援専門員等と問題を共有し、考えあう場を設定し方策を出しあう、ケアマネージメント能力の向上 3. 自己健康管理能力の向上:自主グループづくりと地域組織の連携強化
1. 母子保健事業、サービスの充実 2. 40歳未満(老健事業外)対象者への関与
1. 母子保健事業の中でも子育て支援事業 2. 精神障害者についての相談事業
1. 法や制度の狭間で、対応されにくい事例への関与 2. 地域の声をキャッチできるよう、まずは訪問活動を基本とすること(地域が見えなくなっていると思う、まず現場へ)
1. 法的な知識が必要
1. 法的な理解が必要な事例(プライバシー保護と情報提供のかね合い)
1. 本人の自立を目標にした日常生活への援助・支援 2. 予防活動 3. 生命の尊厳・危機介入事例への関与
1. 本人の判断能力がなく、かつ家族がキーパーソンにならないケースへの対応
1. 本来の地区住民の健康増進のための業務と地区組織育成。2. その他必要なことは行なうが、健康増進の他が最重要な業務にはならないと考える
1. 末期がん患者と家族への関与
1. 民間機関の検診や各種サービスの質アップのための指導や精度管理 2. 他機関との連携、調整、チーム作り等 3. 政策への関与
1. 民生委員やヘルパー等から相談依頼される困難事例への関与
1. 命、今後の生長に大きな悪影響を与えるような危機介入事例への関与(虐待) 2. 健康づくり、介護予防活動の強化
1. 命、特に虐待などの危機介入事例への関与 2. 子どもの心の発達地域づくりの機能 3. 介護予防を通じての健康づくり業務
1. 命に関わる(虐待事例)危機介入事例への関与 2. 他機関から依頼のあった事例
1. 命に関わる～関与は大切だと思うと同時に権限も必要だと思う。2. 制度の枠からはずれた人々のフォロー。いわゆる困難事例。
1. 命に関わるような(虐待など)危機介入事例への関与、命に関わるまでの予防、早期発見 2. 変化する世間のニーズを見すえた上の事業の企画・運営
1. 命に関わるような危機介入
1. 命に関わるような危機介入(虐待 精神) 2. 子どもの発達障害等に関する適切なfollow 他機関との連携
1. 命に関わるような危機介入事例 2. 介護保険利用者の家族への支援 3. 他機関との連携・調整・助言
1. 命に関わるような危機介入事例 2. 生活習慣病の発生予防のための若年者への対応 3. 母子保健業務の中での全ライフステージにおける対応、啓発、教育 4. 最新情報の取得
1. 命に関わるような危機介入事例 2. 地域をマネジメントすること
1. 命に関わるような危機介入事例 2. 地域全体への波及効果のある事例
1. 命に関わるような危機介入事例(児童虐待など)
1. 命に関わるような危機介入事例があれば早期に発見し関与していく 2. 地域づくりへの関与、子育て支援へのかかわり(今ないサービスに必要なサービスを住民の方と共に考えていく) 3. 生活習慣病予防活動 4. 医療福祉保健等の調整役
1. 命に関わるような危機介入事例への関与 2. どことも関わりなく、1人(or1世帯)で抱え込んでいるケース 3. 地域のマンパワーを上げて
1. 命に関わるような危機介入事例への関与 2. 健康危機管理 3. 新たな健康課題の発掘・事業化
1. 命に関わるような危機介入事例への関与 2. 他機関から依頼のあった事例への関与
1. 命に関わるような危機介入事例への関与 2. 判断能力が低下した一人暮らし要支援者への関与 3. 身寄りのない要支援者への関与 4. 虐待の児童、高齢者等要支援者への関与 個別事例だけでなく、地域の健康づくりや介護が必要になっても地域で暮らせる地域づくりなど

